TURN JOURNAL
SPRING 2022 — ISSUE 08

—

TURNの軌跡と
そこからひろがる世界

［ターン ジャーナル］

TURN JOURNAL
SPRING 2022 — ISSUE 08

—

TURNの軌跡と
そこからひろがる世界

本書のテキストデータについて

こちらのQRコードより、本書に掲載されている
全記事のテキストデータをダウンロードできます。
文字情報を音声化する際に活用ください。

p.1−74　　p.75−132

はじめに

2015年に始動した本事業は、複数年間の継続を視野に、日本における新しいダイバーシティの試みを国内外へ発信する「TURN（ターン）」として、その考え方、仕組み、活動の場を後世に継承していくという壮大な構想のもとで走り出しました。東京都の文化事業として、アーティストや福祉施設、地域の団体の参加者と協働しながら活動を展開していくにあたり、様々な立場の人たちの思いとともに推進してきました。

「東京2020オリンピック・パラリンピック」が開催される2020年までの実施を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、事業を1年間延長して展開することに。1年目の構想から、様々な社会の動向に応じて、事業は変化していきました。7年の月日のなかで何が育まれ、未来へつないでいくのか。可視的な事柄から不可視なものまで、その軌跡と蓄積を共有することを目指して本書を構成しています。

第1部では、これまでの活動情報をまとめ、各年度の動向や気運を記録しています。福祉やアートプロジェクト、多様性や社会的包摂などにかかわる研究者や専門家、一般の方々がTURNの活動を振り返り、プロジェクトを実施するときや考察する際の一助になればと考えました。第2部では、TURNの関係者の言葉を通して、これまでの経験を振り返るとともに、今後の活動を展望していきます。

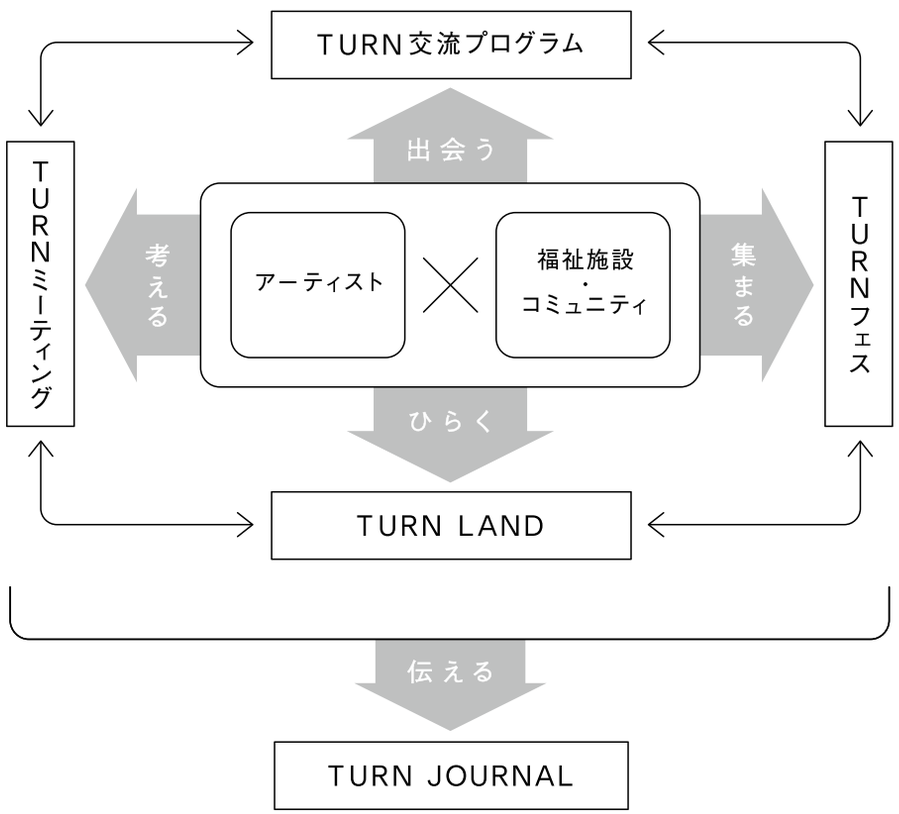
思い返せば、事業の開始当初は、直ぐにプログラムを企画し実践していくのではなく、表現やアート、地域にかかわる福祉施設や団体スタッフの日常のなかから生まれてきた疑問や課題を共有し、お互いの状況を「きく」・「しる」ことからスタートしました。「どちらかといえばルールに則る“福祉”と、自由な“アート”の相性は良くないのではないか」「アートの現場をつくるのは大変なことで、誰もができるわけではない」……。様々な声が共有されるなかで、実践を重ねていくと、それぞれが抱いていた感情や考えに変化（TURN）が生まれていきました。これらを背景に、「出会う」・「集まる」・「ひらく」・「考える」・「伝える」の循環を目指した枠組みが事業構造として明確になっていったのです。

大きな一歩からではなく、小さな一つひとつの変化と展開。そうした萌芽に出会えるかもしれない。そのような気持ちで、本書を手に取っていただければ幸いです。

事業概要

TURN（ターン）とは、障害の有無、世代、性、国籍、住環境などの背景や習慣の違いを超えた多様な人々の出会いによる相互作用を、表現として生み出すアートプロジェクトの総称です。これまでに約80名のアーティスト、約60の施設や団体が参加しています。
2015年、「東京2020オリンピック・パラリンピック」の文化プログラムを先導する東京都のリーディングプロジェクトのひとつとして始動したのち、2017年度より、東京2020公認文化オリンピアードとして展開。2021年度は、東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラムとして実施しました。

TURNを創り出すプログラム相関図



TURNを創り出すプログラム

アーティストが、福祉施設や社会的支援を必要とする人々のコミュニティへ赴き、出会いと共働活動を重ねる「TURN交流プログラム」と、TURNの活動が日常的に実践される場を地域につくり出す「TURN LAND」を基本に据え、「TURNミーティング」と「TURNフェス」の開催によって広くその意義を発信します。さらに、それらの活動を伝えるメディアとして「TURN JOURNAL」を刊行しています。

TURN（ターン）交流プログラム

アーティストと、福祉施設や社会的支援を必要とする人々が時間を重ねて交流し、共働活動するプログラム。また、アーティストによる、社会や日常で意識化されていない課題への気づきを目的としたリサーチも行います。

TURN（ターン） LAND（ランド）

福祉施設や団体が、アーティストと共に参加型のプログラムを企画します。それぞれの場所の持つ従来の機能に、地域に開かれた文化施設としての役割が加わり、住民や市民が集い、TURNを日常的に実践する場をつくります。

TURN（ターン）フェス

「TURN交流プログラム」や「TURN LAND」を実施する、多様なアーティストや交流先の活動が一堂に集まるフェスティバル。作品展示やワークショップ、トークイベント、オリジナルプログラムなど様々なコンテンツを通じてTURNを体感する場をつくり出します。

TURN（ターン）ミーティング

TURNの可能性を共有し、語り、考え合う場。参加アーティストや交流先などの関係者と共に、各分野で活躍するスペシャルゲストを招き、様々な視点からTURNを考察します。

TURN（ターン） JOURNAL（ジャーナル）

TURNにかかわる活動や人々から生まれた多様な観点や、表現、思考などを集め、そこから広がる豊かな世界を、紙媒体や公式ウェブサイト上で発信しています。

海外展開

国内外の文化芸術機関などと連携し、海外でもTURNを実施。参加アーティストが各国で伝統的な技術や所作を携えて福祉施設やコミュニティなどと交流し、その経験をもとに展示やワークショップ、パフォーマンスを展開します。

TURN事業 主催者の変遷

【2015−2017年度】東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人Art's Embrace
（2016年度「TURN in BRAZIL」は、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京）
【2018−2021年度】東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人Art's Embrace、国立大学法人東京芸術大学

目次

3 はじめに

4 事業概要

第1部

9 TURN 7年間の軌跡 2015–2021年度

15 2015年度

18 2016年度

27 2017年度

32 2018年度

40 2019年度

48 海外展開：2017–2019年度

55 2020年度

58 2021年度

62 海外展開：2020–2021年度

66 TURNの発行物

第2部

75 TURNからひろがる世界

78 対談 —— TURNのターニングポイントと、未来へ受け継いでいくレガシー
日比野克彦［TURN監修者］× 森 司［TURNプロジェクトディレクター］

96 コラム アクセシビリティ・プログラムの試み

98 コラム サポーターの声

100 座談会 —— TURN LANDで得たもの、これからのこと
新澤克憲［ハーモニー施設長］
高田紀子［板橋区立小茂根福祉園職員］
高野賢二［クラフト工房La Mano施設長］

110 表現としての手話と「協働」の可能性
——「オンラインTURNミーティング」の制作現場が教えてくれたこと
畑まりあ［アーツカウンシル東京］

120 アーティストの言葉 —— TURNの先を見つめて

121 青く澄んだ四角い海を泳ぐ2匹の鯛 —— 五十嵐靖晃

124 物語ること —— 伊勢克也

127 「地面」好きが、TURNという「海」を泳ぐ —— 岩田とも子

129 歌と世界 —— 永岡大輔

132 編集後記

第１部

TURN 7年間の軌跡
2015－2021年度

TURNの活動は、その多様さと広がりから一様には意味づけられないが、2015－2016年度の立ち上げ期、2017－2019年度の発展期、2020－2021年度のコロナ禍期に大きく分けられるだろう。年度ごとの動向を主催者の視点から記載し、全体像をつかめるよう、出来事を文字情報にまとめた。さらなる詳細については、７年間の発行物に紐づくよう、写真や参照先を掲載した。ぜひ参考にしていただきたい。

（上）「TURN交流プログラム」で行った、リサイクル洗びんセンターでの展示　撮影：池田晶紀　（下）「TURNフェス」中崎 透 × クリエイティブサポートレッツ

（上）「TURNフェス」五十嵐靖晃 × クラフト工房 La Mano　（下）「TURNフェス」ジェームズ・ジャック × ハーモニー

（上）「TURN交流プログラム」川瀬一絵 × リサイクル洗びんセンター　（下）「TURNフェス2」角銅真実 × 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ

（上）「TURNフェス2」永岡大輔 × こども会議　（下）「TURN in BRAZIL」パソ・インペリアルにて 瀧口幸恵 × モンチアズール × きりこ（東北切り紙）

2015年度［2015年4月－2016年3月］

長期的なプロジェクトとして立ち上がったTURN。
「交流」の紹介の場として「フェス」が位置付けられる。

TURN事業の立ち上げとなる2015年度は、それまでに議論してきた構想を実践に向けて動かしはじめた年でした。

「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の文化事業に向け、「障害者アートプログラム」から発展したプロジェクトとして「TURN」のコンセプトが提言され、障害・健常の区分けなく人々がかかわり合い、「人が持つ生来の力」を発揮し合う活動として、「TURN Center（センター）」と「TURN Festival（フェスティバル）」の2つのアートプログラムからなるTURNの事業が構想されました。

日々の営みのなかで生み出される表現と向き合う、通年の活動の場としての「TURN Center」と、そこで見出されたものを幅広く披露する場としての「TURN Festival」。構想時から一過性のイベントにはとどまらない展開を視野に入れ、ふたつの枠組みの設計と実施を目指して2015年に始動しました。

初年度の上半期は、事業の体制づくりと、具体的なプログラムの設計期間にあてました。日比野克彦をTURN監修者に迎え、また日本財団とアール・ブリュット作品を展示する全国の美術館4館の合同企画展「TURN／陸から海へ（ひとがはじめからもっているカ）」（2014年11月8日～2015年9月23日）に参加していた、みずのき美術館キュレーターの奥山理子がTURNコーディネーターとして参画しました。

まず、福祉とアートを掛け合わせた先駆的な取り組みの視察からはじめました。全国各地のアート的表現活動を実施している福祉施設に足を運び、それぞれの施設の特色や事例に着目し、福祉とアートが交わる現場の課題や可能性を検討しました。また、このリサーチを通して出会った人々や組織とネットワークを広げていきました。

下半期は、TURN共催団体となる特定非営利活動法人Art's Embraceとの実施体制の整備とともに、「TURN Festival」での発表を念頭に、アーティストと福祉施設による「TURN交流プログラム」を実施しました。そして、現場での経験や気付きを紹介する場として東京都美術館にて「TURNフェス」を3日間開催しました。

「TURNフェス」では、「TURN交流プログラム」を通して

凡例

○ データの内容は、主に主催者資料をもとに構成している。
○ データの並びは、時系列を基本としている。
○ 事業の並びは、「TURN交流プログラム」「TURN LAND」「TURNフェス」「TURNミーティング」を基本とし、それ以外を続けて掲載している。
○ 本文中の人名や固有名詞の並びは、五十音順を基本とし、場合によっては登壇順（トークイベントなど）、もしくは当時発表した順序で表記している。
○ 人名の括弧内の肩書きは、当時のものを記載している。
○ 施設、団体に関しては、本文中では施設名のみ、もしくは法人格や法人名を略して記載。「『TURN交流プログラム』『TURN LAND』参加法人名称」は、p.64に記載している。
○ 各年度の「TURN事業 主催者の変遷」は、p.5に記載している。
○ 発行物はp.66－74に掲載し、主催者発行以外のものは、発行元を特記している。

生まれた表現を展示し、また、TURNのコンセプトを多角的に議論、発信するカンファレンス（講演会）を実施しました。そのほか、展示室では、プロジェクトメンバーや関係者が車座になり語り合う対話の場を持ちました。また、TURNフェスを支えるサポーターの一般公募も行いました。異なる世代や領域からのサポーターと共に、アーティストや福祉施設の利用者やスタッフ含め、様々な人たちが集う3日間の「TURNフェス」が誕生しました。

TURN 交流プログラム

—

○ 五十嵐靖晃 × クラフト工房 La Mano（ラ マ ノ）
○ 池田晶紀、川瀬一絵 × リサイクル洗びんセンター
○ 稲葉 諒 × クラフト工房 La Mano
○ 今井さつき × シューレ大学
○ 角銅真実 × 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとびあ
○ ジェームズ・ジャック × ハーモニー
○ 富塚絵美 × 板橋区立小茂根福祉園
○ 中崎 透 × クリエイティブサポートレッツ
○ 柳 雄斗 × コミュニティセンター akta（アクタ）
○ 山城大督 × アプローズ南青山

—

［以下、複数の福祉施設・コミュニティを対象にリサーチ、交流］

○ EAT&ART TARO
○ 北澤 潤

「TURN交流プログラム」 ジェームズ・ジャック × ハーモニー

TURNフェス

—

「『出会い』が変わる、『出会い』を楽しむ3日間」

—

日程：2016年3月4－6日
場所：東京都美術館 1階 第2・3公募展示室、講堂
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embrace
協力：東京都美術館×東京藝術大学「とびらプロジェクト」

展示

—

○ ASIA DAIHYO（アジア代表）× 工房まる《マッチフラッグワークショップ》
○ EAT&ART TARO《夕飯コンシェルジュ》
○ 五十嵐靖晃 × クラフト工房 La Mano《New Horizon》
○ 池田晶紀、川瀬一絵 × リサイクル洗びんセンター 池田晶紀《Portrait》、川瀬一絵《Document》
○ 稲葉 諒 × クラフト工房 La Mano《Inahouse 2016 春》
○ 今井さつき × シューレ大学《はじまりのしま》
○ 大崎晴地《エアートンネル》
○ 角銅真実 × 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとびあ《たまりばで》
○ 北澤 潤《TURNする日常》
○ ジェームズ・ジャック × ハーモニー《The Sea in Between Us》
○ 富塚絵美（協力：板橋区立小茂根福祉園）参加型制作展示形式パフォーマンス《ミッチーを待ちながら》
○ 中崎 透 × クリエイティブサポートレッツ《たけし文化センター東京都美術館》
○ 奈良県立大学地域創造学部都市文化コモンズ × たんぽぽの家《わたしのアトリエ》
○ 柳 雄斗 × コミュニティセンター akta《Here comes a delivery.》
○ 山城大督 × アプローズ南青山《アプローズ南青山／就労継続支援B型事業所｜フラワーショップ「BISTARAI BISTARAI」》

カンファレンス

—

○ 芸術による人づくりと学びの場
3月5日 13:00–14:30

出演：松下 功（東京藝術大学副学長）
本郷 寛（東京藝術大学大学院美術研究科美術教育教授）
日比野克彦（TURN監修者）
ファシリテーター：伊藤達矢（とびらプロジェクトマネージャー）
—— 多様な人と共に生きる社会において、芸術や表現者はいかなる役割を担うのか。2020年を見据えた「芸術と教育」をテーマに語り合いました。

—

○ 人といる場をつくる実践
3月5日 15:00–16:30
出演：岡部太郎（一般財団法人たんぽぽの家事務局長）
小山田徹（美術家、京都市立芸術大学美術学部教授）
奥山理子（TURNコーディネーター）
ファシリテーター：稲庭彩和子（東京都美術館学芸員、アート・コミュニケーション担当係長）
—— 一人ひとりと向き合う福祉の現場、新しい関係を作ろうとするアートの現場。多様な人が共にいる「場づくり」について話し合いました。

—

○ “その人らしさ”について考える
3月6日 13:00–14:30
出演：海老原周子（非営利団体新宿アートプロジェクト代表）
富樫多紀（東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野学術支援専門職員）
奥山理子（TURN コーディネーター）
——「人の多様なあり方」のマネジメントにかかわる実践者が集い、それぞれのプロジェクトや経験から考え、「その人らしさ」の可能性を探りました。

—

○ 科学と未来と、人間であること
3月6日 15:00–16:30
出演：ドミニク・チェン（情報学研究者、IT起業家、『シンギュラリティ：人工知能から超知能へ』監訳者）
久保田翠（認定特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ理事長）
日比野克彦（TURN監修者）
ファシリテーター：森 司（TURNプロジェクトディレクター）
—— 2045年、人類は技術的特異点（シンギュラリティ）を迎え、社会の価値観が大きく覆されると予想されるなか、科学と未来の視点から、改めて人間、知性、そして障害とは何かを考えました。

「TURNフェス」 北澤 潤（左）主催のトーク　スピーカー：柳 雄斗（中央）、荒木 順（右、コミュニティセンター aktaセンター長）

サポーター事業

—

○ TURN フェス 募集説明会
日程：2016年1月30日
場所：3331 Arts Chiyoda アーツカウンシル東京 ROOM 302

—

○ TURN フェス オリエンテーション
日程：2016年2月20日
場所：東京都美術館 2階 アートスタディルーム

2016年度［2016年4月－2017年3月］

「TURNセンター構想会議」から生まれた「TURN LAND」。国内のみならず海外でもTURNを広く伝える一年に。

—

２年目となる2016年度は、海外での展開も含めて、事業を国内外へ大きく発信する年となりました。

「リオデジャネイロ 2016 オリンピック・パラリンピック競技大会」を機に、東京都の文化事業「CULTURE & TOKYO in RIO」の一環として、ブラジルのサンパウロとリオデジャネイロで「TURN in BRAZIL」を展開しました。

2016年 3月、はじめての「TURNフェス」を終えた後、TURN監修者の日比野克彦とTURNプロジェクトディレクターの森司はブラジルに渡り、現地の福祉施設やコミュニティセンターの視察を行いました。その後、4名のアーティストを選出。アーティストたちは日本とブラジルの伝統的手法を習得し、その技と知見を携えて、サンパウロの福祉施設に通い、「TURN交流プログラム」を実施しました。その過程から生まれた作品を、リオデジャネイロの歴史的建造物であるパソ・インペリアルで展示し、ワークショップやカンファレンスを催し、延べ4万人を超える多くの来場者にTURNを伝えました。

リオデジャネイロの会場では、TURNの活動概念の説明として、「ソーシャル・インクルーシブ・アートプロジェクト（社会包摂的なアートプロジェクト）」を掲げました。主に障害者支援施設との交流からはじまったTURNではありますが、「高齢者・障害者・子供といった、様々な立場の人たちが共生する社会の実現に向けた、新たな文化的試み」という、初年度から計画されていたコンセプトと通底するメッセージを発信することができました。

ブラジルに入る前には、1週間にわたり、日比野克彦が多彩なゲストとセッションするトークシリーズ「私があなたにTURNする7日間」を東京で開催しました。

帰国後は、ブラジルでの活動紹介を、障害者とアート、デザインの未来をめぐる展覧会「ここから ―アート・デザイン・障害を考える3日間―」（文化庁主催）と連携して、国立新美術館で行いました。ブラジルで展開した「TURN交流プログラム」や展覧会の成果を展示するとともに、帰国報告会として「地球の裏側でTURNする」と題したトークシリーズを開催。アートや福祉の実践者をゲストに迎え、アートプロジェクトを通してどのような社会を目指すのかについて語り合いました。

国内では、「TURN交流プログラム」の継続と、「TURNフェス2」の実施、そして今後の展開に向けて、地域に開かれた文化施設としての「TURNセンター（現「TURN LAND」）」開設への具体的な検討を重ねました。

「TURNセンター」の構築に向けて、民間スペースの視察を行い、事業に必要な環境、使用用途、バリアフリーとしての視点やセキュリティ面などを検証。その一方で、「TURNセンター構想会議」と称した議論の場を設けました。この会議は、「TURN 交流プログラム」に参加する福祉施設・団体のスタッフが月に一度の頻度で集い、「TURNセンター」のコンセプトや運営方法についての意見交換を重ねました。議論は深まるものの着地点を見出せないなか、日比野克彦が、TURN の活動を担う「つなぎ手たち」の人材育成の仕組みを考え、そのつなぎ手が「『海を渡り、上陸』する島＝LAND」を、センターに見立ててイメージしました。この日比野の発想と「LAND」という言葉は、構想会議のメンバーたちの想いとマッチし、プロジェクトが動き出しました。

TURN交流プログラム

—

○ 五十嵐靖晃 × クラフト工房 La Mano
○ 池田晶紀、川瀬一絵 × リサイクル洗びんセンター
○ 今井さつき × シューレ大学
○ 大西健太郎 × 板橋区立小茂根福祉園
○ 角銅真実 × 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ
○ サム・ストッカー × ハーモニー
○ ジェームズ・ジャック × ハーモニー
○ 高本敦基 × 旭川荘
○ 永岡大輔 × 気まぐれ八百屋だんだん ほか
○ 森山開次 × クリエイティブサポートレッツ、みずのき、リサイクル洗びんセンター
○ 山縣良和 × しょうぶ学園
○ 山城大督 × アプローズ南青山

—

［以下、複数の福祉施設・コミュニティを対象にリサーチ、交流］

○ EAT&ART TARO
○ 大崎晴地
○ 現代芸術活動チーム【目】
○ 富塚絵美

TURNフェス2

—

「多様な人と出会い、つながる。
さまざまな交流のかたちが集結！」

—

日程：2017年 3月3－5日
場所：東京都美術館 1階 第1・2 公募展示室、講堂
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embrace
協力：東京都美術館×東京藝術大学「とびらプロジェクト」

展示

—

○ あわい～（富塚絵美、佐藤慎也研究室）
○ EAT&ART TARO
○ 五十嵐靖晃 × クラフト工房 La Mano
○ 池田晶紀、川瀬一絵 × リサイクル洗びんセンター
○ 今井さつき × シューレ大学
○ 大崎晴地
○ 大西健太郎 × 板橋区立小茂根福祉園
○ 角銅真実 × 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ
○ サム・ストッカー × ハーモニー
○ ジェームズ・ジャック × ハーモニー
○ 高本敦基 × 旭川荘
○ 永岡大輔 × こども会議
○ 森山開次・冨田了平
○ 山城大督 × アプローズ南青山

カンファレンス

—

○ TURNの社会的役割を検証する
日時：2017年 3月 5日 14:00–17:00
基調講演：山出淳也（特定非営利活動法人BEPPU PROJECT代表理事、アーティスト）
榎本重秋（ぜんち共済代表取締役社長）
クロストーク：山出淳也、榎本重秋、日比野克彦（TURN監修者）
ファシリテーター：森 司（TURN プロジェクトディレクター）、奥山理子（TURN コーディネーター）
―― ダイバーシティが謳われる昨今の社会背景を、まちづくり、社会制度から相対的に分析し、目指すべき社会の姿を構想しました。

TURNセンター構想会議

—

日程：5月－2017年 3月
場所：3331 Arts Chiyoda アーツカウンシル東京 ROOM 302 ほか
施設参加者：朝倉景樹（シューレ大学スタッフ）、荒木 順（コミュニティセンター aktaセンター長）、工藤かおる（板橋区立小茂根福祉園施設長）、久保田翠（認定特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ理事長）、黒澤英明（社会福祉法人きょうされん リサイクル洗びんセンター総務部長）、新澤克憲（ハーモニー施設長）、高田紀子（板橋区立小茂根福祉園支援員）、高野賢二（クラフト工房La Mano施設長）、光枝茉莉子（アプローズ代表理事）、山田達也（大田区障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ職員）
―― 月1回のペースで、福祉施設や団体のメンバーが集い、「TURNセンター（現『TURN LAND』）」の開設に向けて、議論を重ねました。

中間報告会「TURN」の交流を見る、聞く、語る

—

「TURN LAND」のイメージを描く日比野克彦

日程：2017年 1月 14日 10:00–18:00
場所：東京藝術大学 美術学部中央棟 2階 第3講義室
登壇者：EAT&ART TARO（アーティスト）、角銅真実（アーティスト）、大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ、あわい～（富塚絵美、佐藤慎也研究室）、永岡大輔（アーティスト）、こども会議、アプローズ南青山、板橋区

立小茂根福祉園、旭川荘、池田晶紀（アーティスト）、川瀬一絵（アーティスト）、リサイクル洗びんセンター、大崎晴地（アーティスト）、五十嵐靖晃（アーティスト）、クラフト工房 La Mano、今井さつき（アーティスト）、シューレ大学、ジェームズ・ジャック（アーティスト）、ハーモニー、サム・ストッカー（アーティスト）、日比野克彦（TURN監修者）

―― 「TURN交流プログラム」に参加しているアーティストと交流先のメンバーが一堂に会し、交流の経過や「TURNフェス2」に向けたビジョンをプレゼンテーションしました。また日比野克彦による、これからの「TURN」についての講演とともに、意見交換を行いました。

サポーター事業

―

○ TURNフェス オリエンテーション１回目

日程：2017年２月19日

場所：東京都美術館２階 アートスタディルーム

―

○ TURNフェス オリエンテーション２回目

日程：2017年２月21日

場所：3331 Arts Chiyoda アーツカウンシル東京 ROOM 302

海外展開

―

TURN in BRAZIL

―

トークシリーズ「私があなたにTURNする7日間」

―

日程：6月17―23日

場所：3331 Arts Chiyoda アーツカウンシル東京 ROOM 302

―― 日比野克彦が多彩なゲストと共に、障害、福祉、移民、震災、文化、創造、オリンピックなど、TURNならではキーワードを取り上げ、思考を深めました。

―

○「バリアフリーバラエティ」から考える障害とイメージ

6月17日 19:00–21:00

日比野和雅（NHKプラネット近畿エグゼクティブプロデューサー）

―

○「情報科学」から考える人間の可能性

6月18日 19:00–21:00

ドミニク・チェン（情報学研究者、IT起業家、『シンギュラリティ：人工知能から超知能へ』監訳者）

―

○「学びの場」から考える固有性と多様性

6月19日 19:00–21:00

小貫大輔（東海大学教養学部国際学科教授）

―

○「メディア社会学」から考える当事者性

6月20日 19:00–21:00

アンジェロ・イシ（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）

―

○「臨床哲学」から考える対話のあり方

6月21日 19:00–21:00

西川 勝（臨床哲学者）

―

○「TURN」から考える文化プログラム論

6月22日 19:00–21:00

太下義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター主席研究員・センター長）

―

○「ブラジル」で TURN する

6月23日 19:00–21:00

五十嵐靖晃（アーティスト）

瀧口幸恵（ワークショップファシリテーター）

TURN in Sao Paulo

―

TURN 交流プログラム実施

日程：5―8月

―

○ 五十嵐靖晃（アーティスト）× ピッパ（自閉症児療育施設）× 江戸組紐

○ ジュン・ナカオ（アーティスト）× 憩の園（高齢者福祉施設）× セスタリーア（ブラジルの伝統的な籠編み）

○ 瀧口幸恵（ワークショップファシリテーター）× モンチアズール（貧民コミュニティ支援）× きりこ（東北切り紙）

○ タチ・ポロ（アーティスト）× こどものその（知的障害者支援施設）× 江戸つまみ

※参加アーティスト × 交流先 × 伝統的な技術や作法（補足）

TURN in RIO

―

日程：8月18日―9月7日（8月22、29日、9月5日休）

会場：パソ・インペリアル

――「TURN in San Paulo」での「TURN交流プログラム」を通して生まれた作品をもとに、展覧会とワークショップを行いました。

「TURN in RIO」 パソ・インペリアル会場入り口

TURN in RIO カンファレンス

―

○ 私があなたにTURNするとき／
本来私たちが持っている人の力を

日程：8月27日 14:00–17:00

ジュン・ナカオ（アーティスト）、五十嵐靖晃（アーティスト）、タチ・ポロ（アーティスト）、瀧口幸恵（ワークショップファシリテーター）

ファシリテーター：日比野克彦（TURN監修者）

―― サンパウロでの「TURN交流プログラム」の活動報告とともに、参加アーティストそれぞれの気づきについて共有しました。

―

○ 五輪の役割がTURNするとき／
新たな文化の基礎づくりへ

日程：8月28日 14:00–17:00

平田・アンジェラ・多美子（ジャパンハウス・サンパウロ プレジデント）、吉本光宏（ニッセイ基礎研究所研究理事）、太下義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター主席研究員・センター長）、森 司（TURNプロジェクトディレクター）

ファシリテーター：日比野克彦（TURN監修者）

―― 文化活動や文化政策の実践者・専門家が集い、TURNと日本の伝統との共通性、アートプロジェクトと社会的課題の関係、今後の TURNの世界的展開の意義について語り合いました。

TURN in BRAZIL 帰国報告

―

展示

―

日程：10月21―23日

場所：国立新美術館 企画展示室2E

―― 東京にて、ブラジルで展開した「TURN交流プログラム」や展覧会の成果を紹介するとともに、アート、福祉の実践者をゲストに迎え、プロジェクトメンバーが語り合う「帰国報告会」を開催しました。

帰国報告会「地球の裏側でTURNする」（トークシリーズ）

―

○ レポート：TURN in BRAZIL

10月21日 20:30–21:30

日比野克彦（TURN監修者）、五十嵐靖晃（アーティスト）、瀧口幸恵（ワークショップファシリテーター）、畑まりあ（アーツカウンシル東京）

ファシリテーター：森 司（TURNプロジェクトディレクター）

―― 約2カ月にわたり「TURN in BRAZIL」に参加したプロジェクトメンバーが経験した出会いと交流の日々を報告しました。

―

○ Autista と Artista
―自閉症児療育施設「ピッパ」で糸と向き合う―

10月22日 14:00–15:30

高野賢二（クラフト工房 La Mano 施設長）

五十嵐靖晃（アーティスト）

ファシリテーター：奥山理子（TURNコーディネーター）

―― サンパウロにある福祉施設の自閉症の子供たちとの交流と、「クラフト工房 La Mano」での交流の違いや共通点などについて語り合いました。

―

○ 参加と共有 ―伝統工芸に集まった新しい人々―

10月22日 17:30–19:00

太下義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング芸術・文化政策センター主席研究員・センター長）

西山マルセーロ（竹中大工道具館主任研究員）
ジェームズ・ジャック（アーティスト）
ファシリテーター：森 司（TURNプロジェクトディレクター）
―― 伝統的なものづくりや人や状況との関係にまつわる作品を事例に、交流するアート、関係するアートにおける伝統的手法の介在の可能性について議論しました。
―

◯ 余白と未完 ―異なる他者との過ごし方―
10月22日 20:00–21:30
佐藤慎也（日本大学教授、建築家）
福森 伸（知的障がい者支援施設しょうぶ学園統括施設長・工房しょうぶ主宰）
日比野克彦（TURN監修者）
ファシリテーター：奥山理子（TURNコーディネーター）
―― 新しい福祉施設のあり方や、芸術文化施設とアートの新たな関係の構築などについて話し合いました。
―

◯ 小さなまちと福祉施設
―地域に寄り添う、人に寄り添うアートプロジェクト―
10月23日 13:30–15:00
芹沢高志（P3 art and environment 統括ディレクター）
山野真悟（黄金町バザールディレクター）
吉本光宏（ニッセイ基礎研究所研究理事）
ファシリテーター：奥山理子（TURNコーディネーター）
―― アーティストのかかわりによって、地域の新たな価値を見出すプロジェクトの事例をもとに、TURN を検証し、アートプロジェクトの社会的役割について語り合いました。
―

◯ クロージングトーク：言葉にする、言葉に残す
10月23日 16:00–17:30
日比野克彦（TURN 監修者）
奥山理子（TURN コーディネーター）
ファシリテーター：森 司（TURNプロジェクトディレクター）
――「TURN in BRAZIL」を経験したことで見えてきた、さらなる展開の可能性について議論しました。

（上）「TURN LAND」クラフト工房La Manoにて　（下）「TURNフェス3」富塚絵美とマダム ボンジュール・ジャンジによる《光の広場》

（上）「TURN 交流プログラム」森山開次 × 金町学園　（下）「TURNフェス4」伊勢克也《共生するアトリエ》

（上）「TURNフェス4」山城大督《NENNE｜ねんね》　（下）「TURN 交流プログラム」岩田とも子 × グランアークみづほ

（上）「TURN交流プログラム」飯塚貴士×LITALICOジュニア所沢教室　（下）「TURNフェス5」板橋区立小茂根福祉園と大西健太郎による参加型企画

2017年度［2017年4月－2018年3月］

2つの新たな活動「TURN LAND」「TURNミーティング」。「交流」「フェス」「LAND」の3つの軸が動き出す。

2017年度は、アーティストと福祉施設・団体やコミュニティとの「TURN交流プログラム」を拡充し、「TURNフェス」でその様子を発表したほか、2016年度の「TURNセンター構想会議」の内容を踏まえ、TURNの活動が日常的に実践される場となる「TURN LAND」を実験的に展開。そして新しい事業として「TURNミーティング」を開催しました。

「TURN交流プログラム」では、アーティストが継続的に交流先に通い、関係性を紡いでいくとともに、アーティストが福祉関係の施設や専門家へ視察やヒアリングを行い、摂食障害、身体障害、視覚障害など、障害や福祉にかかわる問題や、多様性を認め合う社会の形成といった包括的なテーマに沿ったリサーチを行いました。

その一方で、福祉施設や団体が主体となる「TURN LAND」が、都内各所でスタート。福祉施設・団体が自ら企画し、アーティストと共に地域住民や一般の人も参加できる時間やプログラムを立ち上げ、実施していきました。

2017年度より、これまで3月に開催していた「TURNフェス」の会期を、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」につながる8月へと移します。「TURNフェス3」は「アクセシビリティ」をテーマに開催。「TURN交流プログラム」を通して出会った方々を具体的に思い浮かべ、会場全体の設えや展示を考案し、「TURNのアクセシビリティ」を展開しました。また、展示やワークショップのほか、多彩なツアーやトークなどのプログラムから、TURNの様々な側面を提示しました。

「TURNフェス3」の開催前には、TURN公式ウェブサイトをリニューアルし、アーティストの活動日誌などを載せた「タイムライン」を設置することで、事業やイベントの周知のみならず、複数の年度にわたる活動や日々の気づきをアーカイブ化し発信していくベースを築きました。

6月よりはじめた「TURNミーティング」は、これまで実施してきた「中間報告会」の延長線として、参加アーティストや福祉施設・団体の関係者が集い、互いに経験を共有することで知見を深めました。

5月には、上野公園で開催された、パラリンピック競技の魅力を体感できる国内最大規模のイベント「NO LIMITS SPECIAL 2017上野」に参加。PRブースにTURNのコーナーを設置し、「TURN交流プログラム」の参加アーティストが音のある空間や、対話型パフォーマンスを披露しました。また、国内外で展開した活動の映像上映を通して、TURNを紹介しました。

そして、「TURN LAND」事業として、アーティストを中心に、交流先の施設の人たちや地域住民などが集まり、TURNの活動を日常的に実践できる第三の場（サードプレイス）をつくり出すことを目的に、田無（たなし）にある東京大学の附属施設である圃場（ほじょう）を借りて、同大学との共同研究に着手しました。アーティストの岩間賢と、不登校や引きこもりを経験した学生たちが、農業とアート活動（ワークショップなど）を組み合わせたプログラムを実施。さらにプログラムを通してどのよう効果が参加者にもたらされるのかを、生理学的、行動的、心理的、また社会的な指標から測定し、検証をはじめました。

TURN交流プログラム

- ○ 池田晶紀、川瀬一絵 × グループホーム フラワー、リサイクル洗びんセンター
- ○ 伊勢克也 × アトリエ・エー、綾瀬ひまわり園、桃三（ももさん）ふれあいの家
- ○ 今井さつき × シューレ大学
- ○ 岩田とも子 × EPO、富士清掃サービス
- ○ 大西健太郎 × 板橋区立小茂根福祉園
- ○ 角銅真実 × 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ
- ○ きむらとしろうじんじん × コミュニティセンター akta
- ○ 久保田沙耶 × アトリエ・エー、みずのき
- ○ 高本敦基 × 旭川荘
- ○ 滝沢達史 × エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン、たんぽぽの家、みずのき
- ○ テンギョウ・クラ × 綾瀬ひまわり園、大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ、小又（おまた）の里、クリエイティブサポートレッツ、はぁとぴあ原宿、ハーモニー、桃三ふれあいの家
- ○ 永岡大輔 × こども会議
- ○ 森山開次 × クラフト工房La Mano、こころみ学園
- ○ 山縣良和 × しょうぶ学園

—

［以下、複数の福祉施設・コミュニティを対象にリサーチ、交流］

◯ EAT&ART TARO

◯ ジェームズ・ジャック

◯ 中崎 透

◯ 山城大督

TURN LAND

—

気まぐれ八百屋だんだん

—

◯ 第1回 おとな図鑑

日程：8月18日

場所：気まぐれ八百屋だんだん

アーティスト：永岡大輔

ゲスト：鈴木 ゴリ 宣仁（牧師、木こり）

—

◯ 第2回 おとな図鑑

日程：2018年 2月12日

場所：気まぐれ八百屋だんだん

アーティスト：永岡大輔

ゲスト：荒木義明（数学者）

ハーモニー

—

◯ かみまちハーモニーランド

日程：2018年 2月23、24、26日—3月3日

場所：ハーモニー

アーティスト：深澤孝史

クラフト工房 La Mano

—

◯ 手のプロジェクト —綿花から糸へ..—

日程：2018年 3月11日

場所：クラフト工房 La Mano

アーティスト：五十嵐靖晃

板橋区立小茂根福祉園

—

◯「お」ダンス 公開稽古

日程：2018年 3月17日

場所：板橋区立小茂根福祉園

アーティスト：大西健太郎、宮田 篤

TURN LAND（田無）

—

日程：1—3月

場所：国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構

研究代表者：

安永円理子（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

深野祐也（東京大学大学院農学生命科学研究科助教）

アーティスト：岩間 賢、日比野克彦

交流先施設：シューレ大学

TURNフェス3

—

「見る・知る・TURNする！」

—

日程：8月18—20日

場所：東京都美術館 ロビー階 第1・2公募展示室

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京・東京都美術館、特定非営利活動法人 Art's Embrace

「TURNフェス3」、現代芸術活動チーム【目】「目とあるく」

展示

—

◯ 井谷優太 と 冨田了平

◯ 今井さつき と シューレ大学

◯ 大西健太郎 と 板橋区立小茂根福祉園

◯ 現代芸術活動チーム【目】

◯ TURN in BIENALSUR

◯ 高橋正浩 と 池田晶紀 と 川瀬一絵

◯ 高本敦基 と 旭川荘

◯ 滝沢達史

◯ テンギョウ・クラ と クリエイティブサポートレッツ

◯ 東京大学先端科学技術研究センター 巖淵研究室

◯ 富塚絵美 と マダム ボンジュール・ジャンジ《光の広場》

◯ 馬場正尊《知覚のライン》

◯ 山縣良和 と ここのがっこう と しょうぶ学園

◯ 山城大督《センサリーメディアラボラトリー（SML）》

◯ らくだスタジオ 田村 大『TURN One to three』

ツアー

—

◯ TURN ツアー

8月18日

11:00–11:30　案内人：奥山理子（TURNコーディネーター）

14:00–14:30　案内人：アート・コミュニケータ「とびラ—」

16:00–17:00　案内人：クリエイティブサポートレッツのメンバー

18:30–19:00　案内人：今井さつき（アーティスト）

8月19日

11:00–12:00　案内人：石川絵理（特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク事務局長）

13:30–14:00　案内人：日比野克彦（TURN監修者）

15:30–16:00　案内人：アート・コミュニケータ「とびラ—」

8月20日

11:30–12:00　案内人：らくだスタジオ

13:00–13:30　案内人：井谷優太（電子音楽家）

15:30–16:00　案内人：アート・コミュニケータ「とびラ—」

—— 「TURNツアー」とは、TURNプロジェクトメンバーや運営スタッフ等とともに会場を巡り、それぞれの見方による楽しみ方を共有するツアーです。

トーク

—

◯ TURN in BIENALSUR 出発直前トーク

8月18日 14:30–15:30

日比野克彦（TURN 監修者）

岩田とも子（アーティスト）

—— アルゼンチンに出発する前の期待に想像を膨らませながら、TURN実施への抱負を語りました。

—

◯ 高本敦基 と 旭川荘 交流プログラム公開ミーティング

8月18日 16:30–17:00

高本敦基（アーティスト）、旭川荘

—— 交流プロセスの詳細や今後の展望について語り合いました。

—

◯ 滝沢達史・今井さつき合同関連トーク

「不登校・ひきこもりの現場から

—社会に多くの選択肢をつくること—」

8月18日 17:30–18:30

朝倉景樹（シューレ大学スタッフ）、佐藤真人（特定非営利活動法人ぐんま若者応援ネット アリスの広場）、滝沢達史（アーティスト）、今井さつき（アーティスト）

—— 「不登校」や「ひきこもり」の活動にかかわる、それぞれの活動を通して見えてくる視点を共有しました。

—

◯ 新しい学びを考える

8月18日 19:00–20:30

住友文彦（アーツ前橋館長）

日比野克彦（TURN 監修者）

—— 社会がダイバーシティを思考していく現在において、美術館やアーティストとしての姿勢や社会への発信の仕方について意見を交わしました。

—

◯ TURN LAND をひらく

8月19日 13:00–15:00

朝倉景樹（シューレ大学スタッフ）、新澤克憲（ハーモニー施設長）、高野賢二（クラフト工房 La Mano 施設長）

ファシリテーター：西村佳哲（働き方研究家）

—— TURN LAND に抱いているイメージや期待について話し合いました。

—

◯ アクセシビリティミーティング

8月20日 11:00–12:00

馬場正尊（建築家）、石川絵理（特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク事務局長）

—— 視覚障害を持つ馬場と、ろう者である石川による手話通訳者と文字支援を介して対話を行い、アクセシビリティのあり方について来場者と考える場になりました。

—

◯ TURNフェス3 クロージングトーク

8月20日 16:30–17:15

日比野克彦（TURN 監修者）、森 司（TURN プロジェクトディレクター）、奥山理子（TURN コーディネーター）
――「TURNフェス3」の3日間を振り返りながら、それぞれが体感した会場の雰囲気や、今後の「TURNフェス」について意見交換しました。

各エリアの催し
—
○ 山縣良和主宰「ここのがっこうin 東京都美術館」
8月19、20日 各10:00–17:00
――「ここのがっこう」による特別授業、講評会などをオープンに実施。
—
○ 現代芸術活動チーム【目】「目とあるく」
8月19、20日 各14:00–15:00
――【目】の荒神明香と同じく視覚と聴覚をふさいだ状態で会場を歩きまわる「目とあるく」と題したワークショップを実施しました。
—
○ 今井さつき関連企画 トーク
「自前の大学でオルタナティブな生き方を模索する」
8月19日 16:00–17:00
今井さつき、シューレ大学学生・OBOG・スタッフ
—
○ 山城大督「センサリーメディアラボラトリー（SML）」
関連企画「《まっしろな絵本》キックオフ・フォーラム」
8月20日 13:30–16:30
岩田美津子（てんやく絵本ふれあい文庫）、福森みか（音点字）、伊藤亜紗（東京工業大学）、山城大督（アーティスト）
—
○ 今井さつき関連企画 トーク
「不登校・引きこもりを経験して自分の学び・生き方を創る」
8月20日 15:30–16:15
今井さつき、シューレ大学学生・OBOG・スタッフ

TURNミーティング
—
第1回 TURNミーティング
—
日程：6月11日 10:00–18:00
場所：東京藝術大学 美術学部 中央棟1階 第1講義室
ゲスト：大西健太郎（アーティスト）、池田晶紀（写真家）、川瀬一絵（写真家）、ラボラトリーズ、らくだスタジオ、特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク、五十嵐靖晃（アーティスト）、永岡大輔（アーティスト）、岩田とも子（アーティスト）、朝倉景樹（シューレ大学スタッフ）、マダム ボンジュール・ジャンジ（コミュニティセンター aktaセンター 長、ドラァグクイーン）、高野賢二（クラフト工房La Mano 施設長）、黒澤英明（社会福祉法人きょうされん リサイクル洗びんセンター総務部長）、久保田翠（認定特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ理事長）
―― 東京藝術大学に集結し、2017年度の活動に向けた展望を話し合ったキックオフイベント。「TURNの交流プログラムを語る」「TURNの残し方・伝え方」「TURN LANDを語る」など、終日議論を繰り広げました。

第2回 TURNミーティング
—
「TURNを検証するⅠ」
日程：10月8日 14:00–17:30
場所：東京藝術大学 音楽学部 5号館401
ゲスト：永岡大輔（アーティスト）、五十嵐靖晃（アーティスト）、藤 浩志（アーティスト）、田中みゆき（キュレーター）
――「TURNフェス3を振り返る」「TURN in BIENALSURを振り返る」に加え、アート関係者2名を迎えて意見交換する3部構成。地域や福祉分野で実践されている諸事例とともに、TURNの取り組みや特性についても議論しました。

第3回 TURNミーティング
—
「TURNを検証するⅡ ―TURNが描く社会―」
日程：11月19日 14:00–17:00
場所：東京藝術大学 美術学部 中央棟2階 第3講義室
ゲスト：ジェームズ・ジャック（アーティスト）、長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院助教）
―― 研究者やアートプロジェクトの実践者、アーティストならではの語りを交えながら、「社会包摂」と「社会実装」をキーワードに、TURNが描く社会について語り合いました。

第4回 TURNミーティング
—
「年次報告会」
日程：2018年1月28日 10:00–16:00
場所：東京国立博物館 平成館 大講堂
ゲスト：山城大督（アーティスト）、新澤克憲（ハーモニー施設長）、鈴木一郎太（大と小とレフ取締役）、五十嵐靖晃（アーティスト）、EAT & ART TARO（アーティスト）、岩田とも子（アーティスト）、永岡大輔（アーティスト）、野老朝雄（アーティスト）、杉山摩美とゆーないと（ほぼ日刊イトイ新聞・スタッフ）
パフォーマンス：大西健太郎
――「この一年間から考える、これからのTURN」「地域への広がり」「手業からはじまる交流」「『ほぼ日』とTURN」の4部構成。地域への広がりを視野に入れたアートプロジェクトのあり方や、伝統的な手業（技術）を取り入れた社会へのアプローチについて語りました。

「第4回 TURNミーティング」パフォーマンスを披露する大西健太郎

サポーター事業
—
○ TURNフェス3 オリエンテーション
日程：7月30日
場所：3331 Arts Chiyoda アーツカウンシル東京 ROOM 302

その他
—
○「NO LIMITS SPECIAL 2017 上野」参加
日程：5月6日 10:00-21:00 ／ 5月7日 10:00-18:00
場所：上野恩賜公園 竹の台広場

※「海外展開」については p.48–50 参照

2018年度［2018年4月－2019年3月］

プログラムが循環し、成熟した一年に。
外からの視点で、TURNの可能性を見つめる試み。

—

2018年度は、前年度から始動した「TURN LAND」が軌道にのり、「TURN交流プログラム」「TURN LAND」「TURNフェス」「TURNミーティング」の循環が具体化した成熟の一年となりました。

「TURN交流プログラム」では、新たに参加するアーティストを増やし、施設などへの訪問とリサーチを重ねて交流先を広げました。その後、マッチングに向けてアーティストと交流先の双方にイメージをヒアリングし、それをもとに交流の組み合わせを調整。実施数は、これまでと比較して最多の年となりました。また、前年度に行った「TURN in BIENALSUR（ビエンナーレスール）」に参加したアルゼンチンとペルーのアーティストが来日し、日本の福祉施設と交流するなど、国内外のTURNの活動が交差する年になりました。

「TURN LAND」の活動も少しずつ広がり、一年を通じて定期的に場をつくる企画も生まれ、一般参加者と福祉施設などの利用者が触れ合う機会が増えました。

「TURNフェス4」は、日比野克彦による造語「日常非常日（ビッジョッビジョッビ）」をテーマに、一人ひとり異なる日常が出会うことで生まれる“違い”を知り、それを楽しむ場を展開しました。展示、ワークショップ、トークやツアーなどを通して、人と人の出会いを創出し、それぞれの知見が豊かになる機会を目指しました。また、手話通訳と文字支援などのアクセシビリティとともに、TURNフェスサポーターによる来場者への支援、アーティストたちとのコミュニケーションにも、前年と同じく継続して取り組み、様々な人と出会いながらTURNを体感する3日間となりました。

「TURNミーティング」は、多彩なゲストを迎えて開催。前年度までは主に、TURNで共に活動しているアーティストや福祉施設・団体の方々が登壇し、関係者同士の知見やネットワークを深めていく方向性でしたが、2018年度はTURNを幅広い人たちに発信していくことを目指し、様々な領域の専門家をゲストに招いて開催しました。TURNを外側の視点から捉えた、多方面にわたる領域の言葉に耳を傾けることで、新たな気づきを得るとともに活動の可能性が広がりました。

年度末には『TURN JOURNAL（ターン ジャーナル）』の1号目となる『TURN JOURNAL 2018』を発行。2018年度の活動の総体を記録しつつ、初年度から複数年を通して様々な局面を迎えながらもTURNやアーティストとの関係を紡いできた「板橋区立小茂根福祉園」での活動をまとめました。

TURN交流プログラム

—

◯ アレハンドラ・ミスライ × 台東つばさ福祉会
◯ 飯塚貴士 × アトリエ・エー、大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ、クラフト工房 La Mano、LITALICO（リタリコ）ジュニア所沢教室
◯ 井川 丹 × アトリエ・エー
◯ 池田晶紀 × グループホーム フラワー、リサイクル洗びんセンター
◯ 伊勢克也 × 桃三ふれあいの家
◯ 岩田とも子 × 富士清掃サービス
◯ 大久保由美 × アトリエ・エー、桃三ふれあいの家、リサイクル洗びんセンター
◯ 川瀬一絵 × グループホーム フラワー、リサイクル洗びんセンター
◯ 久保田沙耶 × みずのき
◯ 小林勇輝 × アトリエ・エー、コミュニティセンター akta、西東京市障害者就労支援センター 一歩
◯ セピーデ・ハセミ × アトリエ・エー、アプローズ南青山、くまちゃんハウス、ナースさくまの家
◯ テンギョウ・クラ × 金町学園、くまちゃんハウス、スウィング、たましろの郷、ナースさくまの家、やまなみ工房
◯ ヘンリー・オルティス・タピア × はぁとぴあ原宿
◯ マチーデフ × 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ
◯ 松本 力 × 金町学園
◯ 森山開次 × 金町学園、ここね篠崎

—

［以下、複数の福祉施設・コミュニティを対象にリサーチ、交流］

◯ 西尾佳織
◯ 中崎 透

TURN LAND

—

気まぐれ八百屋だんだん

—

◯ 第3回 おとな図鑑
日程：2019年 3月2日
場所：大田区立池上福祉園
アーティスト：永岡大輔
ゲスト：寺尾紗穂（音楽家、エッセイスト）

—

◯ だんだんHEKIGAプロジェクト
日程：12月2日、2019年 3月26日
場所：気まぐれ八百屋だんだん
アーティスト：永岡大輔

ハーモニー

—

◯ お金をとらない喫茶展
～ものもの ものこと ことこと もの～
日程：2019年 2月23、24日
場所：ハーモニー
アーティスト：ライラ・カセム ほか

クラフト工房 La Mano

—

◯ 手のプロジェクト Vol.2－7 ―綿花から糸へ..―
日程：5月20日、7月22日、10月21日、12月16日、2019年 1月12日、3月24日
場所：クラフト工房 La Mano
アーティスト：五十嵐靖晃

板橋区立小茂根福祉園

—

◯「お」ダンス × きらりグッとワーク
日程：4月 ― 2019年 3月
場所：板橋区立小茂根福祉園
アーティスト：大西健太郎、宮田 篤

—

◯ TURN LAND in こもねフェスタ
日程：7月7日
場所：板橋区立小茂根福祉園
アーティスト：大西健太郎、宮田 篤

—

◯ TURN LAND in こもねまつり
日程：11月10日
場所：板橋区立小茂根福祉園
アーティスト：大西健太郎、宮田 篤

TURN LAND（田無）

—

日程：4月 ― 2019年 3月
場所：国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構
研究代表者：
安永円理子（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
深野祐也（東京大学大学院農学生命科学研究科助教）
アーティスト：岩間 賢
交流先施設：さくらの園、シューレ大学

「TURN LAND（田無）」アート活動の風景

TURNフェス4

—

「日常非常日（ビッジョッビジョッビ）」

—

日程：8月17―19日
場所：東京都美術館 ロビー階 第1・2公募展示室
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京・東京都美術館、特定非営利活動法人 Art's Embrace、国立大学法人東京芸術大学

展示・ワークショップ

—

○ アート・コミュニケータ東京
○ アレハンドラ・ミスライ
○ 五十嵐靖晃
○ 伊勢克也《共生するアトリエ》
○ 今井さつき《人間ノリ巻き》
○ 岩田とも子
○ 上田假奈代
○ 大西健太郎
○ 小野龍一
○ kuriya（クリヤ）
○ 佐藤 悠《お話しを聞きます》
○ 鈴木一郎太
○ TURN LAND
○ 田村尚子
○ テンギョウ・クラ
○ 野老朝雄
○ DOOR LABO
○ 永岡大輔・山崎大造《球体の家》
○ 中崎 透《コッパーランド》
○ 鳴川 肇
○ 日比野克彦
○ 袋田病院と上原耕生
○ ヘンリー・オルティス・タピア
○ みずのき
○ 山城大督《NENNE｜ねんね》

「TURNフェス4」ヘンリー・オルティス・タピアのワークショップ

ツアー

—

○ 日常非常日（ビッジョッビジョッビ）オープニングツアー
8月17日 10:00–10:45
ナビゲーター：日比野克彦（TURN 監修者）
—— TURN が生まれるきっかけとなったショートステイ体験の話など、TURN とのかかわりを振り返りながら解説しました。

—

○ 多言語 vlog ツアー
8月17—19日 各 11:00–12:00
ナビゲーター：一般社団法人 kuriya ＋ユース
—— 印象に残った企画や場所を多言語で「vlog（ブイログ）」として記録。多様な人々がフェスに参加するためのアクセシビリティについて議論しました。

—

○ TURN フェス 4 ギャラリーガイド
8月17日 13:00–13:45 ／ 8 月 18 日 16:00–16:45
8月19日 10:00–10:45
ナビゲーター：奥山理子（TURN コーディネーター）
—— 作品や活動の裏側について、南米で展開した TURN の様子なども交えて紹介しました。

—

○ TURN フェスを「車椅子」で楽しむツアー
8月17日 14:30–15:15
ナビゲーター：井谷優太（音楽家）
—— 車椅子の目線で会場を回るツアー。ツアーの途中には、タッチパネル式シンセサイザーを用いた演奏も行いました。

—

○ 多文化六面パズルツアー
8月17—19日 各 14:30-17:00
ナビゲーター：一般社団法人 kuriya ＋ユース
—— TURN フェスの会場のなかから 6 つの文化を見つけて撮影。その写真から自分だけの六面パズルをつくり、異なる文化に対する新しい視点や発見をシェアしました。

—

○ 妹のわりきれなさツアー
8月17日 16:00–16:45 ／ 8月18日 12:15–13:00
8月19日 14:00–14:45
ナビゲーター：高橋梨佳（大学院生）
—— 自閉症の姉を持つ高橋と共に、会場にいる人に「兄弟・姉妹との関係」について即興的にインタビューしながら巡りました。

—

○「聞く」をテーマに楽しむツアー
8月17日 17:30–18:30 ／ 8月19日 12:00–13:00
ナビゲーター：石川絵理（特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク事務局長）
—— 自身も聴覚障害を持つナビゲーターのガイドのもと、会場にある「音」を探してオリジナルマップをつくるワークショップツアー。

—

○「見る」をテーマに楽しむツアー
8月18日 14:00–15:00
ナビゲーター：美月めぐみ（女優）
鈴木橙輔（バリアフリー演劇結社ばっかりばっかり）
—— 全盲の女優として活躍するナビゲーターと一緒に、視覚情報以外でフェスを楽しむ方法を考え、試すワークショップツアー。

—

○ TURN さんぽ
8月18日 15:00–15:45 ／ 8月19日 11:15–12:00
ナビゲーター：アート・コミュニケータ「とびラー」
—— 「とびラー」と共に、アーティストと会話することなどを通じて、フェスを体験し、感じて、考えました。

—

○ きょうされんメンバーとゆかいなTURNフェスツアー
8月19日 13:00–13:45
ナビゲーター：池田晶紀（写真家）、川瀬一絵（写真家）、黒澤英明（社会福祉法人きょうされん リサイクル洗びんセンター職員）、山崎秀仁（社会福祉法人きょうされん リサイクル洗びんセンターメンバー）
—— 福祉施設の職員、利用者、写真家の池田晶紀と川瀬一絵と共に会場を巡るツアー。

—

○ TURNフェスを「子供の視点」で楽しむツアー
8月17日 12:00–14:00
ナビゲーター：TURN運営本部スタッフ、TURNフェスサポーター、来場した子供たち
—— 未就学児の子供たちが自身の興味関心に合わせて自由にフェスを楽しむことができるツアー。

トークイベント

—

○ オープニングトーク
8月17日 10:45–11:45
日比野克彦（TURN 監修者）
森 司（TURN プロジェクトディレクター）
鈴木一郎太（大と小とレフ取締役）
司会：奥山理子（TURN コーディネーター）
—— 「日常非常日（ビッジョッビジョッビ）」に託されたコンセプトや企図を語り合い、フェスの全体設計を伝える幕開けとなりました。

—

○ SDGs_2030 年に向けて
— 未来のコミュニティを考える —
8月17日 12:00–13:30
海老原周子（一般社団法人 kuriya代表）
酒井恵美子（スターバックスコーヒージャパン広報部）
司会：森 司（TURN プロジェクトディレクター）
—— 「社会包摂を切り口とした多様性が活きるコミュニティのつくり方」をテーマに、それぞれの経験を通して体得した視点が語られました。

—

○ 異質なもの同士の出会い
— アーティストと療育現場の相性 —
8月17日 14:00–15:30
松本知子（浜松市根洗学園園長）
川口淳一（作業療法士、結城病院リハビリテーション部作業療法科科長）
片岡祐介（音楽家）
司会：鈴木一郎太（大と小とレフ取締役）
—— “異物”としてアーティストに期待していること、施設での振る舞い方、アーティストと療育や福祉の相性についてなど、リアリティあふれる発言が飛び交いました。

—

○ 海外と日本での TURN 交流プログラム①
— アルゼンチンでの経験を通じて —
8月17日 15:30–16:15 ※日西逐次通訳あり
アレハンドラ・ミスライ（アーティスト）
聞き手：畑まりあ（アーツカウンシル東京）
—— 日本での施設との交流をもとに、海外におけるこれまでの経験との違いや共通点についてエピソードを交えて語りました。

—

○ 海外と日本での TURN 交流プログラム②
— ペルーでの経験を通じて—
8月17日 16:15–17:00 ※日西逐次通訳あり
ヘンリー・オルティス・タピア（アーティスト）
聞き手：奥山理子（TURN コーディネーター）
—— 来日してから学んだ「しめ縄編み」をベースに行った交流の様子など、2週間にわたる日本での交流を振り返りました。
—
○ 日本での TURN を考える
— TURN in BIENALSUR への参加を通して—
8月17日 17:00–17:30
日比野克彦（TURN 監修者）、五十嵐靖晃（アーティスト）、岩田とも子（アーティスト）、永岡大輔（アーティスト）
—— 2017年の TURN in BIENALSUR を契機に南米に赴いた3名の作家と日比野が、「日常非常日（ビッジョッビジョッビ）」な体験について語り合いました。
—
○ よもやまばなし —移住が創起させたアートセンター構想—
8月18日 10:30–11:30
イシワタマリ（美術家、山山アートセンター代表）
聞き手：奥山理子（TURN コーディネーター）
—— 京都府の山間集落を拠点に、小規模多機能施設が併設されたアートセンター構想を掲げているイシワタ。この構想に駆り立てるものについて、トークを展開しました。
—
○ クロストーク
8月18日 12:00–13:00
野老朝雄（アーティスト）
鳴川 肇（慶応義塾大学政策・メディア研究科環境情報学部准教授）
—— デザインや設計におけるコンセプトや、社会へ投げかけてきた視点について語り合いました。
—
○ 街を生きる
—教育現場での実践を通して地域に投げかけること—
8月18日 13:00–14:30
宮下美穂（特定非営利活動法人アートフル・アクション事務局長）、鈴木一郎太（大と小とレフ取締役）
—— 福祉や教育の現場と文化事業の違いに着目。文化事業が教育や福祉の現場へ入る際の連携の仕方や、取り組み方の特性を考える時間となりました。
—
○ 支援と表現のはざま
8月18日 15:30–17:00
アサダワタル（文化活動家、アーティスト、文筆家）
鈴木一郎太（大と小とレフ取締役）
—— 旧知の仲であり、互いに共通するスタンスで活動を続ける二人が、福祉現場での取り組みを例に出しながら、その可能性を探りました。
—
○ 精神科病院によるアートの取り組み
8月19日 10:30–12:00
上原耕生（現代美術家）、渡邉慶子（袋田病院作業療法士）、田村尚子（写真家）
聞き手：森 司（TURN プロジェクトディレクター）
—— 精神科医療の現場にアート的実践を取り入れている袋田病院。活動の継続における地域とのかかわりなどについて語り合いました。
—
○ トークイベント：ハーモニーと、『超・幻聴妄想かるた』を通して知るメンバーの生きる世界
8月19日 11:30–12:30
新澤克憲（ハーモニー施設長）
米津いつか（『超・幻聴妄想かるた』編集）
ライラ・カセム（『超・幻聴妄想かるた』デザイン）
佐藤恵美（編集者）
—— 「幻聴妄想かるた」の第3弾を紹介するトーク＆かるた大会を開催。かるたの編集者やデザイナーをゲストに招き、制作の裏話を伺いました。
—
○ 精神保健福祉士とコミュニティデザイナーに聞く
「コミュニティと福祉とアートプロジェクト」
8月19日 13:30–15:00
山崎 亮（studio-L 代表、コミュニティデザイナー、社会福祉士）、新澤克憲（ハーモニー施設長）
聞き手：鈴木一郎太（大と小とレフ取締役）
—— 福祉とコミュニティの関係性や、TURN LAND の将来を見据え、地域に開かれた福祉施設のあり方における議論も展開。
—
○ クロージング・トーク：明日に向けて
8月19日 15:45–17:15
若林 恵（黒鳥社コンテンツ・ディレクター、編集者）
日比野克彦（TURN 監修者）
聞き手：森 司（TURN プロジェクトディレクター）
—— TURN について視野を大きく広げ、今後の展開についてフリートークを行いました。

ステージ
—
スペシャルライブ
8月17日 18:30–20:30
—
○ 大西健太郎「オオオノマトペ」
—— 吃（ども）りの音の特徴をリズムや身体の動きに合わせて表現。
—
○ 角銅真実・日比彩湖・金井麻里
—— TURN に対し、現代音楽の切り口からアプローチ。会場にいる人たちを巻き込みながら、その時にしか生まれない音楽と向き合う時間となりました。
—
○ DJ Yuta & Yuichi「DJ Yuta & Yuichi Live at Tokyo Metropolitan Art Museum」
—— 脳性麻痺があり電動車椅子で生活する音楽家の井谷優太と中原勇一とのユニット。「宇宙」をコンセプトにした即興演奏を行いました。
—
○ 富塚絵美・マリー・島田明日香「ピジョッピジョッピあー」
—— 聴覚に障害を持つマリーがどのようにして音を感じているのか、富塚が疑問を持ったことから生まれた楽曲。一人ひとりのなかから立ち上がってくる「うた」を表現しました。
—
○ 富塚絵美「ぐらんぐらん体操」
8月18日 10:00–11:00
—— 全身の力を抜いて、脱力するための体操。車椅子に乗っている方や障害のある方でも、誰でも参加できる内容でした。
—
○ 大西健太郎「東京のラ・トラのアザビロ」
8月18日 13:30–14:30
—— 「板橋区立小茂根福祉園」の利用者や TURN サポーターなど様々な“ダンサーズ”と「シッチョイサ」をもとにしたパフォーマンスを、来場者を巻き込みながら披露しました。
—
○ 富塚絵美・マリー・島田明日香×大久保由美
8月18日 15:00–16:00
—— 「ピジョッピジョッピあー」のチームが、ダンサーの大久保由美をゲストに迎えてパフォーマンスを実施しました。
—
○ 大西健太郎「『お』ダンス」
8月19日 10:30–11:30
—— 「板橋区立小茂根福祉園」にて「TURN LAND」の活動で行っていた「『お』ダンス」を、会場でも実施しました。
—
○ 富塚絵美・マリー・島田明日香 × 新人Hソケリッサ！× 大久保由美 × 大西健太郎
8月19日 15:00–15:30
—— 「新人Hソケリッサ！」と大西健太郎をゲストに迎え、即興的なパフォーマンスを展開。

シアター
—
○『ニーゼと光のアトリエ』（2015年）
監督：ホベルト・ベリネール
8月17日 10:00–11:45 ／ 8月18日 12:15–14:00
—
シューレ大学映像作品
○『光のあざ』（2016年） 監督：豊 雅俊
○『王子になった乞食』（2014年） 監督：山本菜々子
○『冬の火』（2015年） 監督：高橋貞恩
○『ベアテ・シロタ・ゴードン』（2011年） 監督：豊 雅俊
8月17日 12:00–13:15 ／ 8月18日 10:00–11:15
8月19日 11:00–12:15
—
○『森山開次 × こころみ学園』（2018年）
撮影・編集：冨田了平
8月17日 13:30–14:30 ／ 8月18日 14:00–15:00
8月19日 10:00–11:00
—— ブドウ栽培、ワイン醸造などの活動を行う福祉施設「こころみ学園」の自然あふれる風景のなかで、ダンサーの森山開次が「TURN 交流プログラム」を展開した記録映像。
—
○『「ロミオとジュリエット」から生まれたもの —2017』（2017年）
制作：じゆう劇場、協力：特定非営利活動法人鳥の劇場
8月17日 14:30–16:00
—
○『ソローニュの森』（2017年）
制作：田村尚子 音楽：山口とも

○『VOICE 写真と音楽』（2017年）
制作：田村尚子　音楽：猿山 修、Ultra Living
8月17日 17:00–17:15 ／ 8月18日 15:30–15:45
8月19日 14:45–15:00
—
○『KOMONE 1／TURN』（2018年）
監督：らくだスタジオ 田村 大
8月17日 17:30–18:00 ／ 8月18日 11:30–12:00
8月19日 12:30–13:00
—— アーティストの大西健太郎や宮田篤の「板橋区立小茂根福祉園」でのTURNの交流を追った映像。施設の日常にTURN が混ざり合う様子を記録したドキュメンタリー。
—
○『すべての些細な事柄』（1996年）
監督：ニコラ・フィリベール
8月18日 15:45–17:30 ／ 8月19日 13:00–14:45
—
○『破片のきらめき 心の杖として鏡として』（2008年）
監督：高橋慎二
8月19日 15:30–16:50

各エリアの催し
—
○トーク：太平洋の旅「海から見た世界の話」
8月17日 15:00–15:30
五十嵐靖晃（アーティスト）
—
○《共生するアトリエ》公開彫像制作
8月18日 10:00-12:30
場所：東京都美術館 スタジオ
伊勢克也（アーティスト）
—
○トーク：ペルーの旅「月と糸つむぎの話」
8月18日 11:00–11:30
五十嵐靖晃（アーティスト）
—
○ みずのき美術館運営会議的ミーティング
8月18日 13:30–15:30
菊地敦己（グラフィックデザイナー、アートディレクター）
保坂健二朗（東京国立近代美術館主任研究員）
奥山理子（TURN コーディネーター）
—
○ クロストーク：日本海の旅「海から見た日本の話」
8月18日 14:00–15:00
森真理子（torindo 代表理事）、五十嵐靖晃（アーティスト）
—
○ クロストーク
8月18日 15:00–15:45
三橋 輝（医学書院）、田村尚子（写真家）
—
○ クロストーク
8月18日 17:30–18:30
管啓次郎（比較文学者、明治大学教授）
田村尚子（写真家）
—
○トーク：南極の旅「時間のない大陸の話」
8月19日 11:00–11:30
五十嵐靖晃（アーティスト）
—
○ クロストーク：TURN の旅「旅する糸の話」
8月19日 14:00–15:00
高野賢二（クラフト工房 La Mano 施設長）
五十嵐靖晃（アーティスト）
—
○ クロストーク
8月19日 15:30–16:00
新澤克憲（ハーモニー施設長）、テンギョウ・クラ（アーティスト）、ライラ・カセム（デザイナー）、ハーモニーのメンバー、橋本一郎（手話通訳）
—
○ クロストーク
8月19日 16:15–17:15
遠山昇司（映画監督）、田村尚子（写真家）

TURNミーティング
—
第5回 TURNミーティング
—
日程：5月13日 14:00–17:00
場所：東京藝術大学 美術学部 中央棟1階 第1講義室
ゲスト：近藤良平（振付家、ダンサー、コンドルズ主宰）
演奏：角銅真実とオーケストラ達だ（葛城 梢、寺田燿児、日比彩湖、横手ありさ、角銅真実）
——「近藤さんと日比野さんがざっくばらんに TURNを話す」と「2018活動計画」の2部構成で実施。「TURNフェス4」のテーマ「日常非常日（ビッジョッビジョッビ）」に込めた狙い、今後の TURNの活動について議論しました。

第6回 TURNミーティング
—
日程：10月27日 13:15–17:00
場所：東京藝術大学 美術学部 中央棟2階 第3講義室
ゲスト：稲庭彩和子（東京都美術館学芸員、アート・コミュニケーション係長）、福井千鶴（東京文化会館教育普及担当係長）、上原耕生（アーティスト）、渡邉慶子（袋田病院作業療法士）、伊勢克也（アーティスト）、山城大督（アーティスト）、藤 浩志（アーティスト）
—— 第1部は都立文化施設でのダイバーシティ社会を見据えたコミュニティづくりや人材育成について、第2部は「TURNフェス4」に参加したアーティストや施設職員が登壇し、フェスでの出来事やプログラムの狙いなどを振り返りました。

第7回 TURNミーティング
—
「多様性のある社会について考える」
日程：2019年2月2日 14:30–17:00
場所：東京都美術館 講堂
ゲスト：ロバート キャンベル（日本文学研究者、国文学研究資料館長）
牧原依里（聾（ろう）の鳥プロダクション代表、映画作家）
モデレーター：渡辺 祐（エディター、ライター、J-WAVE「Radio DONUTS」ナビゲーター）
演奏：島田明日香（クラリネット奏者）
——「ろう文化」に対して、聴者の登壇者は「聴文化」をどのように感じているかという問いから開始したクロストーク。聴こえることも多様性のうちの一つである、など気づきの多い時間となりました。

「第7回 TURNミーティング」（左から）牧原依里、ロバート キャンベル、日比野克彦、渡辺 祐

サポーター事業
—
○ TURN サポーター座談会
日程：5月23日
場所：3331 Arts Chiyoda ROOM 308
—
○TURNフェス4 説明会
日程：6月30日 全3回
場所：3331 Arts Chiyoda アーツカウンシル東京 ROOM 302
—
○TURNフェス4 オリエンテーション
日程：7月 28、29日 各1回
場所：3331 Arts Chiyoda アーツカウンシル東京 ROOM 302
—
○TURNフェス4 会場内覧
日程：8月16日
場所：東京都美術館

※「海外展開」については p.48–50 参照

2019年度［2019年4月－2020年3月］

これまでの活動の可視化、発信の強化へ。
プログラムの連関を意識し、複合的に取り組む。

翌年に「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」を控えた2019年度。2020年度の大きな展開を視野に入れながら、TURNが育んできたものをさらに可視化させていくことを目指しました。関係領域の拡大とともに、運営体制や関係者のネットワーク、そして発信を強化する一年として始動しました。

前年度の気づきを通して「聴覚」や「視覚」にも焦点をあて、活動の継続を通して参加アーティストや施設などとの関係性を深めていきました。また、TURNプロジェクトデザイナーとして、「障害福祉の現場の人々と共につくるデザイン」をコンセプトに活動するライラ・カセムが参画。スタッフの運営体制を整えながら、夏の「TURNフェス」が翌年の展開の礎になるよう、他のプログラムとの連関をより意識し、事業を設計しました。

「TURNフェス5」は、ライラ・カセムが発案した「Pathways 身のゆくみち」をテーマに、参加アーティストや福祉施設・団体の利用者などとの出会いを通して、来場者が一人ひとり異なる「行き方／生き方」を見つけ、多様な価値観を体感する場として企画しました。一例として「クラフト工房 La Mano」の活動紹介では、「TURN LAND」の様子を体感できるよう、普段仕事で使用している織り機を会場に持ち込み、日常空間を再現。また、TURNのドキュメントやTURNと親和性のある映像などを上映する“シアタースペース”、パフォーマンスやオリジナル楽曲が披露される“ステージ”、そして各プロジェクトの様々な楽しみ方を提案する“ツアー”を通して、TURNを多角的に発信できるよう努め、例年を上回るプログラム数を展開しました。

さらに開催前には、TURNフェスの発信を広げる取り組みとして、プログラムやそれらの企画の楽しみ方、アクセシビリティについて思考するインタビューなどを掲載した『TURN JOURNAL SUMMER 2019 ― ISSUE 02』を発行しました。

「TURN交流プログラム」の上半期では、「TURNフェス5」での紹介も視野に入れた交流を多く展開。そのなかで、アーティストが同時並行でふたつの施設に通うことで、利用者同士の相互交流から新しい創作も生まれました。また、年間を通して定期的に交流を重ねたアーティストも多く、過去最多の交流日数となりました。

「TURN LAND」では「板橋区立小茂根福祉園」や「気まぐれ八百屋だんだん」など、「TURN LAND」を2～3年継続して展開する場が発展し、参加型公開イベントの回数が、年間を通して最も多い年となりました。同時に、活動の積み重ねから見えてきた発見や課題をもとに、次の展望を見据える年にもなりました。

「TURNミーティング」では、前年度に引き続き、多方面からのゲストを招き、キーノート・トーク（基調講演）やクロストークを行いました。またグラフィックレコーディングを取り入れるなど、トークの内容を視覚的に伝えることも試みています。

一方、年度末から新型コロナウイルス感染症が蔓延しはじめ、施設などへの訪問が難しい状況となり、複数の「TURN交流プログラム」や「TURN LAND」が中止。今後の先行きが見えにくいなかで2019年度の幕を閉じることになりました。

TURN交流プログラム

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、プログラムの一部を中止。

―

○ 飯塚貴士 × 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ、LITALICOジュニア所沢教室
○ 井川 丹 × アプローズ南青山
○ 池田晶紀 × シューレ大学、リサイクル洗びんセンター
○ 伊勢克也 × 桃三ふれあいの家
○ 今井さつき × みかんの木
○ 岩田とも子 × グランアークみづほ、富士清掃サービス
○ 川瀬一絵 × グループホーム フラワー
○ セピーデ・ハセミ × アトリエ・エー
○ テンギョウ・クラ × ナースさくまの家
○ 永岡大輔 × はぁとぴあ原宿
○ パポとユミ × 上町工房
○ マチーデフ × 板橋区立小茂根福祉園、上町工房、福祉ホームさくらんぼ
○ 松本 力 × 金町学園、シューレ大学
○ 丸山素直 × エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン
○ ラ・マーニャとユミ × 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ、上町工房

―

［以下、複数の福祉施設・コミュニティを対象にリサーチ、交流］
○ 西尾佳織

「TURN交流プログラム」マチーデフ × 福祉ホームさくらんぼ

TURN LAND

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、プログラムの一部を中止。

―

気まぐれ八百屋だんだん

―

○ 第4回 おとな図鑑
日程：9月7日
場所：大田区立池上福祉園
アーティスト：永岡大輔
ゲスト：マダム ボンジュール・ジャンジ

―

○ 第5回 おとな図鑑
日程：12月15日
場所：大田区立池上福祉園
アーティスト兼ゲスト：永岡大輔

ハーモニー

―

○ お金をとらない喫茶展2 ～イロイロを楽しむアトリエ～
日程：2020年2月15、16日
場所：ハーモニー
アーティスト：佐々木めばえ

クラフト工房 La Mano

―

○ 手のプロジェクト 2019 Vol.1－10 ―綿花から糸へ..―
日程：4月26日、5月11日、6月14日、7月28日、8月30日、9月29日、10月18日、11月10日、12月19日、2020年1月19日
場所：クラフト工房 La Mano
アーティスト：五十嵐靖晃

板橋区立小茂根福祉園

―

○「お」ダンス open day
日程：5月22日、6月19日、7月10日
場所：板橋区立小茂根福祉園
アーティスト：大西健太郎、宮田 篤、井川 丹

―

○ TURN LAND in こもねフェスタ ―こもねグッと―
日程：7月6日
場所：板橋区立小茂根福祉園
アーティスト：大西健太郎、宮田 篤

―

○ TURN LAND in こもねまつり
日程：11月9日
場所：板橋区立小茂根福祉園
アーティスト：大西健太郎、宮田 篤

―

○ こもね座「お」ダンス ―解放日
日程：2020年2月12日
場所：板橋区立小茂根福祉園
アーティスト：大西健太郎、宮田 篤

TURN LAND（田無）

―

日程：4月―2020年3月
場所：国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構
研究代表者：
安永円理子（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
深野祐也（東京大学大学院農学生命科学研究科助教）
アーティスト：岩間 賢
交流先施設：さくらの園、シューレ大学

―

○ TURN フェス5 関連企画「ひまわり迷路」
日程：8月8、9日
場所：国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構
研究代表者：
安永円理子（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）

深野祐也（東京大学大学院農学生命科学研究科助教）
アーティスト：岩間 賢
実施チーム：当機構の技術専門職員、ひまわり市民ボランティア、シューレ大学、さくらの園

TURNフェス5

—

「Pathways 身のゆくみち」

—

日程：8月16—18、20日
会場：東京都美術館 ロビー階 第1・2公募展示室
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京・東京都美術館、特定非営利活動法人Art's Embrace、国立大学法人東京芸術大学

展示＆ワークショップ

—

○ アトリエ・エー
○ 飯塚貴士
○ 池田晶紀《「働く」を写す《人＋動／仕＋事》》
○ 伊勢克也
○ 岩田とも子《「意識の散歩」手に入れたくしゃくしゃの地図の上》
○ OTON GLASS（オトン グラス）／FabBiotope（ファブビオトープ）
○ 齋藤陽道
○ 出張TURN LAND
板橋区立小茂根福祉園「『お』ダンス —影の漂流地点にて—」、気まぐれ八百屋だんだん、クラフト工房La Mano、ハーモニー
○ TURN in HAVANA 活動紹介
○ TURN in TUCUMAN, BIENALSUR 活動紹介
○ TURN - LA TOLA 活動紹介
○ 東大生態調和農学機構
○ 富塚絵美「Boatt Room —盲ろう文化でぽーっとボァッと光を抱く部屋—」
○ 牧原依里と東京ろう映画祭実行委員会
○ 未来言語
○ 森山開次・冨田了平
○ 楼婕琳（ロウジェリン）《神様の庭》

ツアー＆コミュニケーション

—

○ オープニングツアー
8月16日 10:00–11:00
ナビゲーター：ライラ・カセム（TURNプロジェクトデザイナー）
—— テーマ「Pathways 身にゆくみち」に導かれ、アクセシビリティの視点と共に会場を巡りました。

—

○「ももの会」と一緒にまわるお散歩見学ツアー
8月16日 13:00–13:45
ナビゲーター：伊勢克也（アーティスト）、ももの会
—「桃三ふれあいの家」の利用者やスタッフ、交流する伊勢克也と、普段の交流の話を交えながらお散歩見学を行いました。

—

○ TURNから社会の面白さを探り・巡るツアー
8月16日 16:15–17:15
ナビゲーター：ジュリア・カセム（京都工芸繊維大学特命教授、ロンドン芸術大学客員教授）
—— 様々な現場でインクルーシブデザインを実践してきたナビゲーターが、TURNに切り込み、社会的側面と関連性を読み解くツアーを開催しました。

—

○ 一緒にみる、伝え合うツアー
8月17日 11:00–11:45
ナビゲーター：岡森祐太（聴覚に障害のあるファシリテーター）
—— 聴覚障害を持つナビゲーターとその仲間と共に、筆談や絵、手話などで感じたことを伝え合いながら鑑賞しました。

—

○ NIN_NINとまわる未来言語ツアー
8月17、18日 各11:00–11:30、14:00–14:30
ナビゲーター：松田崇弥、高橋鴻介（未来言語メンバー）
—— 五感を封じ、他者とボディシェアリングするロボット「NIN_NIN」と共に新しいモノの見方と知覚を発見する実験的鑑賞体験ツアー。

—

○ 目が見えない人＆耳が聞こえない人とみなさんがつくる共感ツアー
8月17日 12:00–13:00
ナビゲーター：関場理生（ダイアログ・イン・ザ・ダーク アテンド）、石川絵理（特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク事務局長）

—— ナビゲーターと参加者と共に、見えない、聞こえないにかかわる様々な共感の可能性を広げるツアー。

「TURNフェス5」目が見えない人＆耳が聞こえない人とみなさんがつくる共感ツアー

—

○ 会話によってみえてくる美術鑑賞会
8月17日 15:00–17:00
ナビゲーター：白鳥建二（全盲の美術鑑賞者）
—— 目の見える人と見えない人が作品の前で語り合い、集まった人の感覚を頼りに、一人では経験できない鑑賞時間が生まれました。

—

○ 耳が聞こえない鑑賞人小笠原新也が筆談でご案内
8月18日 11:30–12:15
ナビゲーター：小笠原新也（徳島県立近代美術館アートイベントサポーター）
—— 筆談での会話と鑑賞をゆっくりと楽しみながら、会場を巡りました。

—

○ とびラー TURNさんぽ
8月18日 16:15–17:00
ナビゲーター：アート・コミュニケータ「とびラー」
—「とびラー」が選んだコースで、参加アーティストとの会話と共にそれぞれの楽しみ方を見つけました。

—

○ ベビーといっしょにミュージアム
8月20日 10:30–11:30、13:30–14:30
ナビゲーター：アート・コミュニケータ東京
—— 赤ちゃんと一緒の家族が安心して美術館で過ごすためのプログラム。授乳室などの案内と併せて、対話をしながら作品の鑑賞を深めました。

—

○「みかんの木」の子供たちと楽しい遠足ツアー！
8月20日 13:00–13:45
ナビゲーター：今井さつき（アーティスト）、みかんの木
—— 放課後等デイサービス「みかんの木」の子供たちと共に、会場を一緒に回りました。

トーク＆レクチャー

—

○ オープニングトーク
8月16日 11:00–11:45
森 司（TURNプロジェクトディレクター）
ライラ・カセム（TURNプロジェクトデザイナー）
—— テーマ「Pathways 身のゆくみち」に込めた思いと、新たな「体感」と出会えるヒントを、プログラムと共に紹介しました。

—

○ IN-Accessibility
—世の中の排除から考え実現させるアクセシビリティ—
8月16日 14:00–15:30
ジュリア・カセム（京都工芸繊維大学特命教授、ロンドン芸術大学客員教授）
塩瀬隆之（京都大学総合博物館准教授）
田中みゆき（キュレーター）
司会：ライラ・カセム（TURNプロジェクトデザイナー）
—— 排除（エクスクルージョン）から見るインクルージョンの可能性について語りました。

—

○ アートとサッカーとTURNの親和性
8月16日 16:00–17:30
赤荻 徹（アトリエ・エー主宰）
日比野克彦（TURN監修者）
司会：畑まりあ（アーツカウンシル東京）
—— ダウン症の子供たちのサッカーチーム「エイブル FC」の活動から、サッカーと創作の双方の視点から見えてくる可能性について語り合いました。

—

○ レクチャー：「わたしたち」の場所を考えるゼミ「in/ex-clusion」
8月17日 10:00–10:30
長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院助教）
—— 芸術の場にいる一人ひとりの「わたしたち」のためのゼミを、3回に分けて実施。ゼミに込めた思いや、ベースとなる考え方について話しました。

—
○ ゼミ1「ことばをつくる」
8月17日 10:30–12:00
鈴掛 真（歌人）、犬童一利（映画監督）
司会：長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院助教）
—— ことばを洗練させて表現していくなかで、多様な人たちがかかわることの意味や、そこからこぼれ落ちるものとどう向き合うか、考え話しました。
—
○ ゼミ2「ものをつくる」
8月17日 12:30–14:00
金箱淳一（神戸芸術工科大学助教）
島影圭佑（オトングラス代表）
司会：長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院助教）
—— 何かを表現しようとしたときに生まれる「障害」を、技術を使って乗り越えようと試みたとき、乗り越えられるものと乗り越えられないものは何か。具体的な活動を通じて考えました。
—
○ ゼミ3「じぶんをつくる」
8月17日 15:00–16:30
入江 杏（ミシュカの森主宰、上智大学グリーフケア研究所非常勤講師、世田谷区グリーフサポート検討委員）
新澤克憲（ハーモニー施設長）
司会：長津結一郎（九州大学大学院芸術工学研究院助教）
—— 様々な生きづらさに直面しながら表現に取り組むゲストと、自分を振り返るものとしての表現について考えました。
—
○ 身体で遊び、表情とオドル
8月18日 14:30–15:30
佐藤拓道（たんぽぽの家アートセンター HANA職員）
水田篤紀（同センター所属アーティスト）
大西健太郎（アーティスト）
司会：畑まりあ（アーツカウンシル東京）
—— 障害を持つ人とケアする人の境界を超えて生み出される場の可能性について語り合いました。
—
○ 一人ひとりの自発的な学びを引き出す多彩なアプローチ
8月18日 15:30–17:00
小山田徹（美術家、京都市立芸術大学教授）
小澤いぶき（児童精神科医、認定特定非営利活動法人PIECES 代表理事）
司会：森 司（TURN プロジェクトディレクター）
—— 異なる背景や体験を持つ子供たちが自発的な学びを引き出す多彩なアプローチと、そこに込められた思いを語り合いました。
—
○ 未来の人たち —2029年の日本の教育と福祉—
8月20日 10:30–12:00
中浜崇之（介護福祉士、特定非営利活動法人Ubdobe理事）
プラディップ・タパ（ハーモニー・プリースクール・インターナショナル代表取締役、エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン理事）
司会：ライラ・カセム（TURNプロジェクトデザイナー）
—— 様々な社会的立場や人生背景のある人々が混ざり合う日本で、教育と福祉の現場における現状や、展望について語りました。
—
○ TURN と BIENALSUR —人とみちの巡り会い—
8月20日 10:30–12:00
岩田とも子（アーティスト）、布下翔碁（工芸作家）
司会：日比野克彦（TURN 監修者）
—— 国際南米現代芸術ビエンナーレ「BIENALSUR」に参加したアーティストによるトーク。
—
○ TUNE（調律）を通して TURN する
—エクアドルで見出した音楽と感性の変化—
8月20日 12:00–13:00
小野龍一（音楽家）
聞き手：畑まりあ（アーツカウンシル東京）
—— 2018年にエクアドルで展開した「TURN-LA TOLA」に参加したアーティストが海外でTURNした体感を語りました。
—
○ きょうだい児
—親でも友達でもない人たちがみる障害と社会と自分—
8月20日 13:00–14:30
高橋梨佳（せんだいメディアテーク職員）
藤木和子（弁護士）
岩中可南子（特定非営利活動法人 Art's Embrace）
司会：ライラ・カセム（TURN プロジェクトデザイナー）
—— 兄弟姉妹に障害を持つ人がいるきょうだい児。俯瞰的な立ち位置だからこそ見えてくる社会と自身に焦点をあてながら思考を深めました。
—

○ 地球上のいろいろなところにあるTURN
8月20日 15:30–17:00
海外で展開したTURNの参加アーティスト
日比野克彦（TURN 監修者）
—— 2016 年から様々な国で展開してきた TURN。それぞれの地域や福祉施設などでの交流から見えてきた、日本との共通点や違いについて語りました。

ライブ＆パフォーマンス
—
○ オープニングナイト
8月16日 18:00–20:00
ラ・マーニャとユミ（ラテンミュージックバンド）、U:gene（ヒューマンビートボクサー）、マチーデフ（ラップクリエイター）、ラブ・エロ・ピース（パンクバンド）
—— ダンサーやラッパー、パンクバンドなどが舞台を盛り上げ、初日の夜を彩りました。
—
○ ラ・マーニャとユミのサルサ・バー
8月17日 13:15–13:45／8月18日 16:00–16:30
8月20日 15:00–15:30
ラ・マーニャとユミ（ラテンミュージックバンド）
—— ラテン音楽のミュージシャンのラ・マーニャとダンサー大久保由美による参加型ステージ。
—
○ The のど自慢 YES！FUTURE —性について語ろう—
8月17日 15:00–16:30
マダム ボンジュール・ジャンジ（ドラァグクィーン） ほか
—— 多彩で豪華なゲストを出演者とコメンテーターに迎え、性（セクシュアリティ）について言葉にしたり、カラオケをしたり。一人ひとりの多様な性のありようを考えました。
—
○ TURN ラップのど自慢 公開練習
8月18日 10:30–12:00
マチーデフ（ラップクリエイター） ほか
—「TURNラップのど自慢」に向けて、参加者たちが本番と同じ環境で最終練習を行いました。
—
○ TURN ラップのど自慢
8月18日 14:00–15:00
マチーデフ（ラップクリエイター） ほか
—— 福祉施設の職員やメンバー（利用者）、運営スタッフによるラップのど自慢。オリジナル・ラップを披露しました。

シアター＆プレイルーム
—
○『あえかなる部屋 —内藤礼と、光たち』（2015年）
監督：中村佑子
8月16、18日 各10:00–11:30
—
○『TOTA』（2012年） 監督：八幡亜樹
8月16日 12:00–13:00／8月17日 10:00–11:00
—
○『たき火』（1972年） 監督：深川勝三
8月16日 13:15–15:15／8月20日 10:00–12:00
—
○『LISTEN リッスン』（2016年）
監督：牧原依里、雫境（DAKEI）
8月16日 15:30–16:30／8月18日 12:00–13:00
—
○『こんばんはⅡ』（2018年） 監督：森 康行
8月16日 17:00–17:40／8月20日 12:15–12:50
—
○『もうろうをいきる』（2017年） 監督：西原孝至
8月17日 13:00–14:35／8月18日 15:30–17:05
8月20日 13:45–15:20
—
○『つむぐもの』（2016年） 監督：犬童一利
8月17日 15:00–16:50／8月18日 13:15–15:05
—
○ 上映会「ろう学生がつくる映画と表現」
8月20日 15:30–17:00
企画：牧原依里と東京ろう映画祭実行委員会
—— 会期中の4日間を通して映画制作に挑戦したろう学生による映像の上映会。
※講師を交えたトークも開催（約1時間）

各エリアの催し
—
○ 飯塚貴士 映像ワークショップ
8月16—18日、20日 各11:00–13:00、15:00–17:00
—
○ ワークショップ前の「準備体操」
8月16—18日 各13:00–13:15

アトリエ・エー
―― 「アトリエ・エー」のメンバーが在籍するサッカーチーム「エイブル FC」の選手による準備体操。
―
○ 出張 TURN LAND『「お」ダンス』
8月16―18日、20日 各13:00–14:00
―― 身体の表情や行為を通してかけ合う二人の踊り手と、その周りから「お」のかけ声をかける「合いの手」が折り重なって生み出される「『お』ダンス」の場を、1日を通して開く展示形式のパフォーマンス。
※パフォーマンス公演の前後は、公開でワークショップを行いました。
―
○ 出張 TURN LAND『「超・幻想妄想かるた」かるた大会
8月16、20日 各14:00–15:00
―
○ ワークショップ後の「発表会」
8月16―18日 各14:30–15:00
アトリエ・エー
―― 「アトリエ・エー」のワークショップで描かれた作品のテーマやエピソード、自己紹介などの発表を行いました。
―
○ 出張 TURN LAND 屋根の上でだんだんの未来を語る
8月16、17、20日 各15:00–16:00(17日のみ16:45–17:15)
―
○ 出張 TURN LAND 糸紡ぎワークショップ
8月17、18日 各10:30–12:00、14:30–16:00
―
○ 池田晶紀 × 川瀬一絵 × リサイクル洗びんセンターのみなさん × シューレ大学のみなさんトーク
8月18日 12:30–13:30
―
○ OTON GLASS ／ FabBiotope
8月16日
10:00–14:00 FabBiotope ケーススタディプレゼン
8月17日
14:30–16:00 当事者の家族の在り方
16:00–17:00 これからのインクルーシブデザイン
8月18日
13:00–14:30 多様性と機械学習
15:30–16:30 FabBiotope プロセス検証
8月20日
10:00–12:00 変わることを変えない
―
○ 未来言語ワークショップ
8月16―18、20日
各10:00–10:30、13:00–13:30、14:00–14:30、15:00–15:30、16:00–16:30、17:00–17:30
(16、20日は11:00–11:30、16日は18:00–18:30、19:00–19:30も開催)

TURNミーティング

―

第8回 TURNミーティング

―
「未来を切りひらくコミュニケーションって!?」
日程：5月12日 13:30–15:30
場所：東京藝術大学 美術学部 中央棟1階 第1講義室
ゲスト：松田崇弥(ヘラルボニー代表取締役、未来言語共同代表)、梶谷真司(東京大学大学院総合文化研究科教授)
―― コミュニケーションの可能性を妨げる固定観念や、理解し合えることの可能性など、未来の様々な対話を想像し、展望を語り合いました。

「第8回 TURN ミーティング」(左から) 梶谷真司、ライラ・カセム、松田崇弥、日比野克彦

第9回 TURNミーティング

―
「人が集まる空間ってどんな場所?」
日程：11月17日 13:30–15:30
場所：東京藝術大学 音楽学部 5号館1階 109教室
ゲスト：安部 良(建築家、安部良アトリエ一級建築士事務所代表)、藤岡聡子(福祉環境設計士、ReDo代表取締役、医療法人オレンジ理事、軽井沢町ほっちのロッヂ共同代表)

―― 多彩な機能と人が出会う場では、どのような経験が生まれるのか。それぞれの空間で生じる新しい関係性や可能性、場を創造するために必要な考えや技術について語り合いました。

第10回 TURN ミーティング

―
「知らない境地を『面白がる』」
日程：2020年2月2日 13:30–16:30
場所：東京藝術大学 音楽学部 5号館1階 109教室
ゲスト：鈴木励滋(生活介護事業所 カプカプ所長、演劇ライター)、上田假奈代(詩人、特定非営利活動法人こえとことばとこころの部屋 cocoroom 代表)
モデレーター：
藤原ちから(批評家、「orangcosong」アーティスト)
パフォーマンス：マダム ボンジュール・ジャンジ(ドラァグクィーン)
―― 様々な人たちの「違い」を積極的に面白がることで、新しい価値観を広げているゲストのお話を伺い、「言葉」から見出す多様性や新しい境地との向き合い方について語り合いました。

サポーター事業

―
○ TURNフェス5 説明会
日程：7月7日
場所：3331 Arts Chiyoda アーツカウンシル東京 ROOM 302
―
○ TURNフェス5 勉強会
日程：7月19―21日 各1回
場所：3331 Arts Chiyoda アーツカウンシル東京 ROOM 302
―
○ TURNフェス5 オリエンテーション
日程：8月3、4日 各2回
場所：3331 Arts Chiyoda アーツカウンシル東京 ROOM 302
―
○ TURNフェス5 会場内覧
日程：8月15日
場所：東京都美術館

※「海外展開」については p.48–50 参照

海外展開：2017−2019年度

TURNの活動が、広い世界で響き合い、
共に時間を紡ぐ。

—

TURNは、様々な機関と連携し、国内のみならず海外の複数カ国での展開も実現してきました。2016年にブラジル、2017年にアルゼンチンとペルー、2018年にエクアドル、2019年に再びアルゼンチンのほか、キューバ、ポーランド、台湾とのかかわりのなかでプロジェクトを実施しました。参加アーティストが伝統的な技術や作法を携えて一定期間、福祉施設やコミュニティなどと交流し、その経験をもとに展示やワークショップ、パフォーマンスを各地で展開しました。

事業の初期においては、こうした幅広い海外展開は想定されていませんでした。2016年に「リオデジャネイロ2016オリンピック・パラリンピック」に連動する形でTURNを発信することを目指したのち、それらの活動に関心を持った海外のキュレーターや大学から招聘される形で、2017年より他国でも展開するようになりました。また、2017年度以降の海外展開の制作主体は、東京藝術大学が担う体制をとることで実現しました。

2017年、2019年に「TURN in BIENALSUR」「TURN in TUCUMAN, BIENALSUR」の舞台となった、国際現代美術ビエンナーレ「BIENALSUR（ビエンナーレスール）」は、現代美術と社会をつなげていくことを主眼のひとつとしています。国際的なネットワークの構築とともに、「多様性」をテーマに掲げるこのビエンナーレが推進しているのは、「多様性におけるそれぞれの特異性」を見出すことであり、一人ひとりの特性を学び合うTURNの主眼とも重なりました。

その後も、海外からの要請によりTURNの現場が増えていきます。ただそれは、TURNが新たな概念を持ち込んだというよりも、世界各地にTURN的な考え方や活動がすでにあり、そうした人や場所との連携により、新たな場が発生したといえるでしょう。日本と同じく、様々な社会的な課題に直面している世界のコミュニティがあることに気づき、言語や国籍の違いにかかわらず、経験を共有できることを教えてくれたのが、TURNの海外展開でした。

2017年度

—

TURN in BIENALSUR
（アルゼンチン、ペルー）

※第1回国際現代美術ビエンナーレ「BIENALSUR」招聘

—

主催：国立トレス・デ・フェブレロ大学 ―BIENALSUR
企画協力：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京
協力：国立大学法人東京芸術大学

「TURN in BIENALSUR」アレハンドラ・ミスライ × ブリンカール × ランダ

—

TURN交流プログラム実施
日程：7月中旬 ―9月上旬

アルゼンチン・ブエノスアイレス

—

◯ アレハンドラ・ミスライ × ブリンカール（自閉症児造形教室）× ランダ（レース編み）
◯ イウミ・カタオカ × アルンコ・インターナショナル財団（リハビリテーションセンター）× 絞り
◯ 岩田とも子 × カミノス財団（知的障害者支援施設）× 折形（おりかた）
◯ セバスチャン・カマーチョ・ラミレス × センテス1（特別支援学校）× チャキーラ（ビーズ織物）
◯ 永岡大輔 × センテス3（特別支援学校）× 和菓子

※参加アーティスト × 交流先 × 伝統的な技術や作法（補足）

—

展示・ワークショップ
日程：9月16日―10月29日
場所：国立トレス・デ・フェブレロ大学附属美術館

ペルー・リマ

—

◯ 五十嵐靖晃 × セリート・アスール（自閉症・知的障害者通所施設）× 藍染め、アンデスの織物
◯ ヘンリー・オルティス・タピア × レプブリカ・デ・ニカラグア小学校1027 × シクラ（かぎ針編みの袋）

※参加アーティスト × 交流先 × 伝統的な技術や作法（補足）

—

展示・ワークショップ
日程：9月25日―10月29日
場所：ペルー国立高等芸術学校文化センター

「TURN - LA TOLA」小野龍一 ×「もののね」

2018年度

—

TURN - LA TOLA
（エクアドル）

—

主催：エクアドル中央大学、国立大学法人東京芸術大学、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embrace

—

TURN交流プログラム実施
日程：5月30日―6月30日

—

◯ 大西健太郎 × シッチョイサ（伝統的な盆踊り）
◯ 小野龍一 ×「もののね」（古来日本の音楽観に基づく音）

協力：セザール・ポルティヤ、ダイアナ・ボルハ
交流先：エクアドル中央大学、カサ・デ・ラス・バンダス（音楽普及施設）、カサ・ソモス（コミュニティセンター）

※参加アーティスト × 伝統的な技術や作法（補足）／各アーティストが複数の場所で交流

—

パフォーマンス
日程：7月7日
場所：エクアドル中央大学、カサ・デ・ラス・バンダス、カサ・ソモス、ラ・トラ地区　ほか

2019年度

—

TURN in HAVANA
（キューバ）

※第13回ハバナ・ビエンナーレ招聘

—

主催：国立大学法人東京芸術大学、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embrace
共催：ヴィフレド・ラム 現代美術センター（ハバナ・ビエンナーレ事務局）

—

TURN交流プログラム実施
日程：2019年3月11日 ―4月5日

—

◯ 徳本萌子、ヨアン・カラッタラ・コラーレス × 鯉のぼり、パパロテ（凧）
◯ 中村奈緒子、ルース・マリエット・トゥルエバ × 注連縄（しめなわ）、ヤレイ（帽子の素材となる植物と編み方）

アート・コミュニケータ：松橋和也
交流先：サンイグナシオ・レジデンシー（高齢者施設）、ベレン・コンベント（高齢者施設）、アンヘラ・ランダ小学校

※参加アーティスト × 伝統的な技術や作法（補足）／各アーティストが複数の場所で交流

—

展示・ワークショップ
日程：4月12日 ― 5月12日
場所：サンイグナシオ・レジデンシー、アンヘラ・ランダ小学校、ビエハ広場

「TURN in HAVANA」 中村奈緒子、ルース・マリエット・トゥルエバ × 注連縄、ヤレイ

TURN in TUCUMAN, BIENALSUR
（アルゼンチン）

※ 第2回 国際現代美術ビエンナーレ「BIENALSUR」招聘

—

主催：国立大学法人東京芸術大学、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embrace

共催：トレス・デ・フェブレロ大学 (BIENALSUR 事務局)

—

TURN 交流プログラム実施

日程：6月3—21日

—

◯ 曽根麻衣 × スクール 213（学童〜青年期学校）× 裂き織り

◯ 布下翔碁 × スクール 217（学童〜青年期学校）× 陶芸・土への所作

コーディネーター：アレハンドラ・ミスライ

※参加アーティスト × 交流先 × 伝統的な技術や作法

—

◯ 展示

日程：6月29日—8月18日

場所：ティモテオ・ナバロ州立美術館

—

◯ 展示・ワークショップ

日程：8月25—31日

場所：キルメス遺跡博物館

TURN in Poland
（ポーランド）

—

主催：国立大学法人東京芸術大学、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embrace

共催：ヴロツワフ美術大学

—

TURN 交流プログラム実施

日程：6月24日—7月10日

—

◯ 髙岡太郎 × 陶芸技術

◯ ダニエラ・タゴフスカ × ヴィチナンキ・ウォヴィチ（切り絵）

◯ プシャメック・ピンタル × 日本の絵馬としめ縄

◯ 許允（ホユン） × 和紙、韓紙

交流先：トゥ・ラゼム協会、ヴロツワフ・シニア・センター、ポポビツチェ・シニア・クラブ、ヴロツワフ大学サードエイジ大学（すべて高齢者支援活動）

交流会場：ヴロツワフ美術大学

※ 参加アーティスト × 伝統的な技術や作法（補足）

—

展示・ワークショップ

日程：7月12—26日

場所：ヴロツワフ美術大学附属ネオン・ギャラリー

TURN in Taiwan
（シンポジウム形式公開ミーティング）

—

主催：国立大学法人東京芸術大学、財団法人国家文化芸術基金会、財団法人文化台湾基金会、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embrace

協力：台北当代芸術館 MOCA Taipei

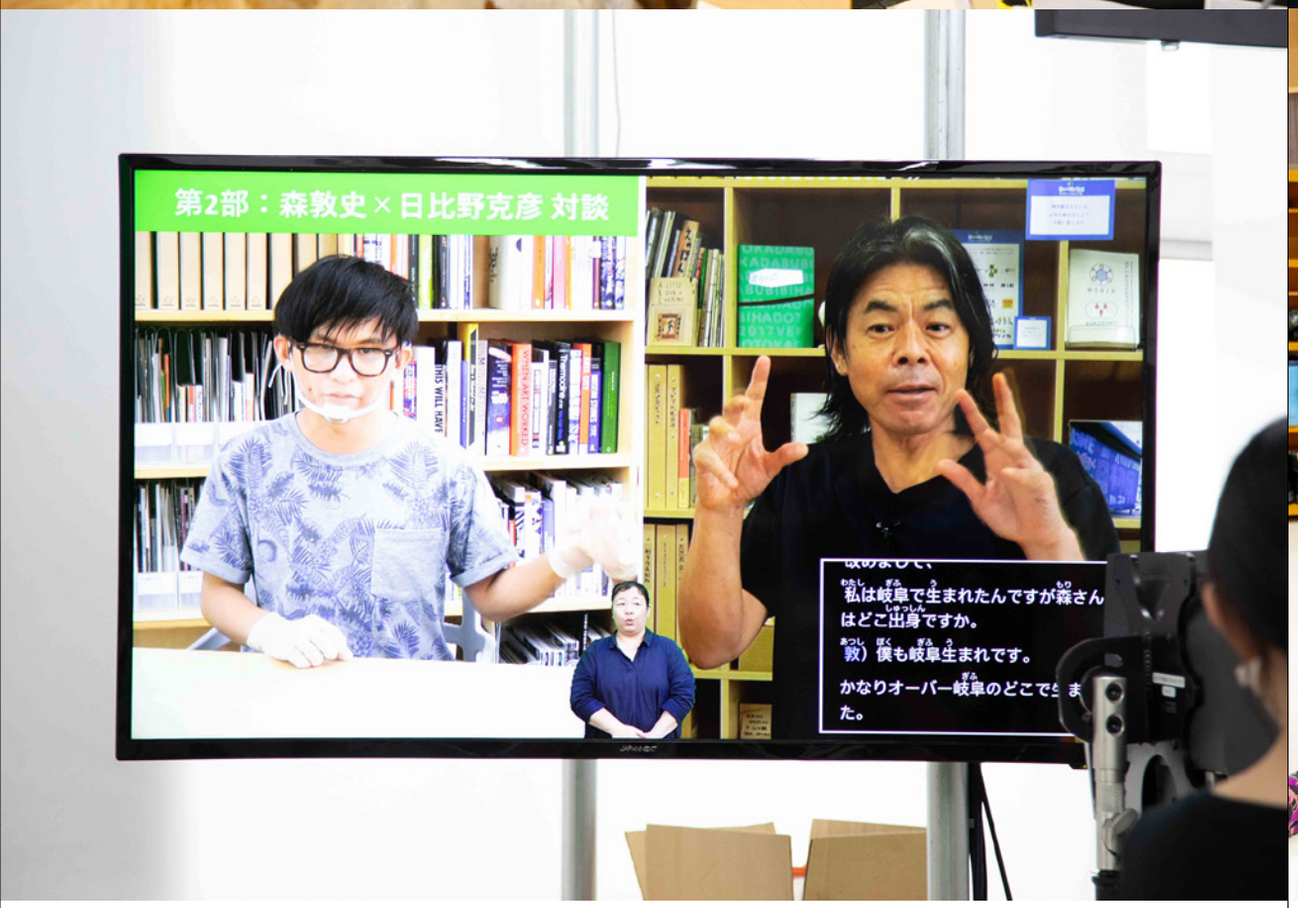
—

日程：12月7日 14:00–18:00

場所：東京藝術大学 美術学部 中央棟1階 第1講義室

参加者：王 淑芳（ワン シュウ）（台湾文化センター長）、澤 和樹（東京藝術大学長）、日比野克彦（東京藝術大学美術学部長）、潘 小雪（パン シャオシュエ）（国立東華大学教授）、舒米如妮（スミ ドゥンギ）（アーティスト）、王 力之（ワン リーズ）（アーティスト）、陳 淑燕（チェン シュウエン）（アーティスト）、撒部噶照（サブ カカー）（アーティスト）、石塚嘉宏（アーティスト）、遠藤文香（アーティスト）、島津利奈（アーティスト）、諏訪部佐代子（アーティスト）

（上）「TURN LAND」クラフト工房 La Mano にて　（下）「TURN LAND」クラフト工房 La Mano によるオンライン企画



（上）「TURN LAND」ハーモニーによるオンライン企画の配信の様子　（下）「第11回 TURNミーティング」森 敦史×日比野克彦

（上）「TURN交流プログラム」永岡大輔×はぁとぴあ原宿　（下）「TURN交流プログラム」岩田とも子×ハーモニー・プリスクール・インターナショナル

（上）「TURNフェス6：東京都美術館」PARC「こんな状況を逆手にとって、TURNフェスを楽しもう！」　（下）「TURNフェス6：東京都美術館」TURNラボの展示

2020年度［2020年4月－2021年3月］

前年度末からはじまったコロナ禍。対面の交流のみならず、これまでにない新しい交流の形を模索する。

—

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年6月、東京都美術館をはじめとする複数会場で開催を予定していた「TURNフェス2020」を中止しました。

一方で、「TURN交流プログラム」や「TURN LAND」については、遠隔でも可能な交流の形を模索しました。たとえば音楽家の井川丹と「アプローズ南青山」による「TURN交流プログラム」では、音楽とフラワーアレンジメントの技術を融合して交流を重ねました。ほかにも手紙やビデオ通話アプリを用いたやりとりを行うなど、直接会うことが難しい状況下での交流に取り組みました。

「TURN LAND」においても、オンラインでの開催や活動が主になりました。準備に時間を要したり、慣れない作業に戸惑ったりすることもありましたが、アーティスト、施設、スタッフが協力して工夫と対話を重ねた一年となりました。

「TURNミーティング」においても、オンライン生配信を実施。様々な人が参加できるよう、リアルタイムで字幕を表示するUDトーク（字幕）や、音声ガイドの導入とともに、ろう者による「手話ナビゲーター」と「フィーダー（手話ナビゲーターに情報を伝える人）」とが連携した手話通訳を実施しました。

さらに、多彩なリサーチテーマをもとにした「TURNラボ」が始動。アーティスト、建築家、UIデザイナー、視覚障害者や盲ろう者の教育に携わる専門家、哲学の専門家など、多ジャンルの人たちが集いました。月1回、オンラインで顔を合わせ、それぞれが設定したテーマをもとに、様々な知覚の世界観や、多様な人々との共生の方法などについて議論と考察を重ねました。

また、TURNサポーターを対象にした「サポーター勉強会」もオンラインで実施。外部の美術館の学芸員や振付家、施設職員などをゲストに迎え、コロナ禍の状況を踏まえながら、TURNの活動をサポートするための知識や技術に加え、より包括的なアクセシビリティについて学ぶ場を開きました。

そして、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により日々変化していく社会を捉えるメディアとして、『TURN JOURNAL』の装いを一新。タブロイド仕様で夏・秋・冬・春と定期的に発行しました。TURNにまつわるその時々の声や状況を発信するとともに、社会情勢や課題と向き合いながら、各号ごとに異なるテーマを設定しました。

TURN交流プログラム

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、プログラムの一部を中止。

—

○ 飯塚貴士 × 大田区立障がい者総合サポートセンターさぽーとぴあ
○ 井川 丹 × アプローズ南青山
○ 伊勢克也 × 桃三ふれあいの家
○ 岩田とも子 × ハーモニー・プリスクール・インターナショナル
○ 永岡大輔 × はぁとぴあ原宿
○ パポとユミ × 上町工房
○ マチーデフ × 福祉ホームさくらんぼ
○ 松本 力 × TDU・雫穿大学（てきせんだいがく）
○ 丸山素直 × エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン

TURN LAND

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、プログラムの一部を中止。

—

気まぐれ八百屋だんだん

—

○ おとな図鑑番外編「夏の旅先おとな図鑑」
日程：8月13日
実施方法：オンライン参加
アーティスト：野口竜平
ゲスト：ユキハシトモヒコ（旅する服屋さん「メイドイン」主宰）

—

○ 第1回 町にでるんば
日程：9月20日
実施方法：オンライン参加
アーティスト：野口竜平

—

○ 記録のための勉強会「いなかった人に伝えるんば」
日程：9月27日
実施方法：オンライン参加
講師：鈴木健太（デザイナー、演出家）

—

◯ 町にでるんばにアイデアをのせるんば
日程：2021年 2月13日
実施方法：オンライン参加
アーティスト：野口竜平
—
◯ 第 6 回おとな図鑑
日程：2021年 2月 28日
実施方法：オンライン参加
アーティスト：野口竜平
ゲスト：佐々木ののか（文筆家）

ハーモニー
—
◯ お金をとらない喫茶展3 ～in my brain～
日程：2021年 2月 27日
実施方法：オンライン参加
アーティスト：深澤孝史、ナカガワエリ
ゲスト： テンギョウ・クラ（ヴァガボンド）、石塚弓子（歌い手、ボイストレーナー、MC）、櫻井文也（写真家）、シマダカズヒロ（ハーモニーサポートスタッフ）

クラフト工房 La Mano
—
◯ テレ手のプロジェクト2020 Vol.1－4、6 ―綿花から糸へ..―
日程：5月16日、6月 28日、8月15日、11月 8日、2021年 3月14日
実施方法：オンライン参加
アドバイザー：トミザワタクヤ（Tokyo Cotton Village 代表）
—
◯ 手のプロジェクト 2020 Vol.5 ―綿花から糸へ..―
日程：12月12日
場所：クラフト工房 La Mano
アドバイザー：トミザワタクヤ（Tokyo Cotton Village 代表）
—
◯ ラマノの勉強会「記録と広報を考える」
日程：2021年 2月 16日
実施方法：オンライン参加
講師：中田一会（きてん企画室代表）、加藤 甫（写真家）

板橋区立小茂根福祉園
—
◯ リモート文通式劇場 ―こもね座「4コマバイオーム」
日程：2021年 1月 20日
実施方法：オンライン参加
アーティスト：大西健太郎、宮田 篤

TURN LAND（田無）
—
日程：4月 ― 2021年 3月
場所：国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構
研究代表者：
安永円理子（東京大学大学院農学生命科学研究科准教授）
深野祐也（東京大学大学院農学生命科学研究科助教）
アーティスト：岩間 賢
交流先施設：さくらの園、TDU・雫穿大学（てきせんだいがく）

「TURN LAND」 気まぐれ八百屋だんだんにて

TURNミーティング
—
第11回 TURN ミーティング
—
「出会い方とコミュニケーションのいろいろ
―様々な手法やツールを通じて考える―」
日程：9月 19日 14:00–15:30
実施方法：オンライン生配信
ゲスト：森 敦史（筑波技術大学総務課広報・情報化推進係）
パフォーマー：マダム ボンジュール・ジャンジ（ドラァグクイーン）
―― 初のオンライン開催。 ゲストに盲ろう者の意思疎通の方法と ICT（通信技術を活用したコミュニケーション技術）を用いた支援についての研究者を迎え、コミュニケーションの方法と、人と人の関係性や可能性について語り合いました。

第12回 TURN ミーティング
—
「『ろう文化』ってなんだろう ―『手』で会話する？―」
日程：11月 29日 17:30–19:00
実施方法：オンライン生配信
ゲスト：高島由美子（手話通訳士）、モンキー高野（手話フレンズ代表）、那須英彰（俳優、手話ニュースキャスター）
パフォーマー：マチーデフ（ラップクリエイター）
―― 「ろう文化」をキーワードにトークを展開。 手話の表現の魅力や、 ろう者と聴者のコミュニケーションの違いについて思考を深めました。

第13回 TURN ミーティング
—
「きく・ふれる・そうぞうする
―身体感覚を通してとらえる世界―」
日程：2021年 3月 6日 15:00–16:30
実施方法：オンライン生配信
ゲスト：駒崎広幸（「埼玉T.Wings」、日本ブラインドサッカー協会所属）、鳥居健人（「free bird mejirodai」、参天製薬企画本部CSR室所属）
―― ブラインドサッカー選手として活躍するゲストの空間把握の仕方や身体感覚について話を聞き、 スポーツとアートに共通する「想像する力」について意見を交わしました。

TURNラボ
—
◯ 第1―9回 TURNラボ研究会
日程：7月27日、8月21日、9月28日、10月19日、11月19日、12月14日、2021年 1月28日、2月15日、3月22日
実施方法：オンライン
リサーチャー： 佐藤慎也（建築家、日本大学理工学部建築学科教授）、島影圭佑（オトングラス代表取締役）、富塚絵美（アーティスト）、橋本 瞭（Ubitoneメンバー）、本多達也（Ontennaプロジェクトリーダー、富士通）、山蔦栄太郎（Ubitoneメンバー）
アドバイザー：梶谷真司（哲学者、東京大学大学院総合文化研究科教授）、三科聡子（宮城教育大学教育学部准教授）

サポーター事業
—
サポーター勉強会
—
◯ 第1回 TURNサポーター勉強会
テーマ：「TURNを知る」
日程：8月 28日
講師：日比野克彦（TURN監修者）
—
◯ 第2回 TURN サポーター勉強会
テーマ：「想像力を携えて他者と出会う」
日程：9月 12日
講師：砂連尾 理（振付家、ダンサー）
—
◯ 第3回 TURN サポーター勉強会
テーマ：「つながりのつくり方 ―どう魅力を伝えるか―」
日程：10月 26日
講師：岡部兼芳（はじまりの美術館館長）
大政 愛（はじまりの美術館学芸員）
—
◯ 第4回 TURN サポーター勉強会
テーマ：「やわらかなアクセシビリティ ―やわらかな ややわらかな わやらかな コミュニケーションのはじまり ―」
日程：11月 22日
講師：Sasa/Marie（詩人、サインポエット）
—
◯ 第5回 TURN サポーター勉強会
テーマ：「現場からみるTURN」
日程：12月 18日
講師：新澤克憲（ハーモニー施設長）
近藤博子（気まぐれ八百屋だんだん店主）
—
◯ TURNサポーター振り返り会
テーマ：「TURN サポーター・プログラム 振り返り会」
日程：2021年 3月 20日
進行：ライラ・カセム（TURNプロジェクトデザイナー）、岩中可南子、天羽絵莉子（特定非営利活動法人 Art's Embrace）

※「海外展開」については p.62–63 参照

2021年度［2021年4月－2022年3月］

コロナ禍の制約のなかでも、工夫を凝らして交流を継続。
人と人との多様なつながりの可能性を具体化する。

—

延期になっていた「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の開催に合わせて、「TURNフェス」の開催を決定しました。その内容は例年と異なり、美術館で開催する「TURNフェス6：東京都美術館」、特設ウェブサイトを会場とする「TURNフェス6：オンラインプログラム」を企画し、「TURN茶会」を加え、3つのプログラムを合わせて「TURNフェス2021」と総称することにしました。

「TURNフェス6：東京都美術館」は例年の「TURNフェス」に位置づけられるもので、「TURN交流プログラム」や「TURN LAND」の活動を紹介する展示のほか、様々な知覚を用いた会場の楽しみ方を案内する「アクセシビリティ・カウンター」を設置。2020年度に刊行した『TURN JOURNAL』や、アーティストや各方面の専門家たちと実施した「TURNラボ」から生まれた、新しい交流へのアプローチを発表しました。また、2015年からTURNの現場に密着して撮影を続けていた、らくだスタジオ 田村大のドキュメンタリー映像『TURNs 2016-2021』も上映しました。

「TURNフェス6：オンラインプログラム」では、「TURNフェス2021特設ウェブサイト」を開設し、ワークショップや活動のプロセスに触れる写真や映像の掲載など、様々な表現やアーティストと出会うプラットフォームを展開。約1カ月半の間に、26のコンテンツを公開しました。

また国立新美術館で開催した「TURN茶会」は、「地球・人をアートで問う」をテーマに、気持ちを交わし合う機能を持った空間を茶室に見立てて、お茶の時間を過ごす代わりに、互いに手を動かしながら何かをつくったり、イメージしたりする時間を過ごす場を創出しました（詳細は p.63 参照）。

「TURN交流プログラム」や「TURN LAND」においても、緊急事態宣言下にあった4～9月は、前年度に引き続きオンラインを中心とした交流を行い、離れているからこそ実現できるプロセスと成果を実感する年になりました。

「TURNミーティング」では、前年度に引き続き、アクセシビリティに工夫を凝らし、オンラインで配信。「第14回TURNミーティング」では、前年度の「オンラインTURNミーティング」のアクセシビリティを振り返り、チームとして活動していた手話通訳者をゲストに迎えて議論しました。最終回となる「第15回TURNミーティング」は、TURNプロジェクトメンバーをゲストに、関係者が会場で再会する場を創出するとともに、その様子を記録しました。そして、手話通訳、音声ガイド、UDトーク（字幕）などを別途収録して配信する、情報保障に取り組みました。

TURN交流プログラム

—

○ 飯塚貴士 × 大田区立障がい者総合サポートセンター さぽーとぴあ
○ 伊勢克也 × 桃三ふれあいの家
○ 岩田とも子 × ハーモニー・プリスクール・インターナショナル
○ 永岡大輔 × はぁとぴあ原宿
○ パポとユミ × 上町工房
○ マチーデフ × 福祉ホームさくらんぼ
○ 松本 力 × TDU・雫穿大学
○ 丸山素直 × エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン

「TURN交流プログラム」丸山素直 × エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン

TURN LAND

—

気まぐれ八百屋だんだん

—

○ クイズ！つつむんば
～「ひらく」ための「つつむ」ってなーんだ？～
日程：11月13日 ／ 実施方法：オンライン参加
アーティスト：野口竜平

ハーモニー

—

○ 新しい生活様式を送る私たちの実感と
人力のスライドショー
日程：11月28日 ／ 実施方法：オンライン参加
アーティスト：アサダワタル（文化活動家）

クラフト工房 La Mano

—

○ テレ手のプロジェクト 2021 Vol.1－3 ―綿花から糸へ..―
日程：5月15日、9月4日、10月23日
実施方法：オンライン参加
アドバイザー：トミザワタクヤ（Tokyo Cotton Village 代表）

—

○ 手のプロジェクト 2021 Vol.4 ―綿花から糸へ ..―
日程：12月18日 ／ 場所：クラフト工房 La Mano
アドバイザー：トミザワタクヤ（Tokyo Cotton Village 代表）

板橋区立小茂根福祉園

—

○ 四コマ漫画文通式劇場 こもね座
「電光!! ギガマスバイオーム」
日程：12月8日 ／ 実施方法：オンライン参加
アーティスト：大西健太郎、宮田 篤

TURNフェス6

—

「出会いが広がる」

—

TURNフェス6：東京都美術館

—

日程：8月17―19日
場所：東京都美術館 ロビー階 第1・2公募展示室、講堂
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京・東京都美術館、特定非営利活動法人 Art's Embrace、国立大学法人東京芸術大学
共催：東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

展示

—

○ アイムヒア プロジェクト｜渡辺 篤「同じ月を見た日」
○ 五十嵐靖晃 × クラフト工房 La Mano《手とその人 ―自分と社会を手でつなぐ32人のかたち―》
○ 井川 丹《TURN NOTES》
○ 伊勢克也「桃三ふれあいの家との交流記録」
○ 岩田とも子「遠くの地面を歩く」
○ 大西健太郎「こもね座特別企画『コレダ・レーダ』」
○ 〈TURN交流プログラム 活動紹介〉井川丹 × アプローズ南青山
○ 〈TURN交流プログラム 活動紹介〉マチーデフ × 福祉ホームさくらんぼ
○ TURNラボ（富塚絵美、佐藤慎也、本多達也、橋本瞭、島影圭佑、梶谷真司、三科聡子）《このオペラは見えない。それは釣りをする時、魚がいても見えないのと同じ。このオペラは聞こえない。それは朝日が昇る時、地鳴りがしないのと同じ。ようこそ、これからのオペラハウスへ。大海を舞う魚のように、私たちを繋ぐ太陽のように、当たり前の日々を奏で続ける。》
○ 〈TURN LAND活動紹介〉板橋区立小茂根福祉園／アーティスト：大西健太郎、宮田 篤
○ 〈TURN LAND活動紹介〉気まぐれ八百屋だんだんと野口竜平「～だんだんひらき、だんだんつつみ～」
○ 〈TURN LAND活動紹介〉ハーモニー／アーティスト：深澤孝史、ナカガワエリ
○ 〈TURN LAND活動紹介〉東京大学大学院農学生命科学研究科附属生態調和農学機構（東大生態調和農学機構）と岩間 賢
○ 永岡大輔「バンド工房」
○ 2020年 コロナ禍の『TURN JOURNAL（ターンジャーナル）』
○ PARC「こんな状況を逆手にとって、TURNフェスを楽しもう！」
○ 丸山素直「エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパンとの旅」
○ 山本千愛《かたちのない手ざわり／接地面をなぞる》
○ 「TURNの記録写真」撮影・選定：冨田了平

ツアー、参加型プログラム

—

○ アクセシビリティ・カウンター
相談員：小笠原新也、木下知威、関場理生、瀬戸口裕子、檀鼓太郎、美月めぐみ × 鈴木橙輔

8月17—19日 各9:30–17:30
—— 視覚や聴覚などに障害のある来場者一人ひとりに合わせて鑑賞方法や参加の仕方を提案しました。
—
○うちわ de “ドン！”
ナビゲーター：PARC
8月17—19日 各11:00–12:00
—— 声を出さずに、コミュニケーションを取りながら展示を楽しむツアー。作品の印象を、うちわに描かれた図で示しながら、参加者やスタッフ間で共有し合いました。
—
○とびらプロジェクト「出会いが広がる探検TURN！」
8月17—19日 各14:00–15:30（17日は15:00–16:30）
—— アート・コミュニケータ「とびラー」と一緒に、TURNフェス6で発見した気づきや感想を共有し合う参加型プログラム。

上映作品
—
○『father 2008.11-12』（2020年） 監督：金川晋吾
8月17日 15:30–16:30
—
○『father 2011-2013』（2019年） 監督：金川晋吾
8月18日 11:50–12:28
—
○『TURNs 2016-2021』（2021年）
監督：らくだスタジオ 田村 大
8月18日 14:45–16:30
8月19日 12:45–14:30（音声ガイド上映）
—— 6年にわたり蓄積されたTURNの記録映像をもとに制作されたドキュメンタリー映画。アーティスト、福祉施設の利用者やスタッフに生まれたTURNの軌跡を映し出します。
—
○『愛と法』（2017年） 監督：戸田ひかる
8月19日 10:15–11:49
—
○『うたのはじまり「絵字幕版」』（2020年）
監督：河合宏樹 出演：齋藤陽道 ほか
8月19日 15:20–16:46
—
○『ダンシングホームレス』（2019年）
監督・撮影：三浦 渉 出演：新人Hソケリッサ！
8月17日 12:45–14:24
—
○『アイ・コンタクト ―もう1つのなでしこジャパン ろう者女子サッカー―』（2010年） 監督：中村和彦
8月17日 10:15–11:43
—
○『世界を自分に取り戻せ』（2021年）
作画：TDU・雫穿大学 編集：松本 力
8月18日 13:30–13:37
——「TURN 交流プログラム」を通して生まれたアニメーション。「記憶の風景」をテーマに、不登校やひきこもりなどを経験している／していた学生と共に制作されました。

—
TURNフェス6：オンラインプログラム
—
日程：7月19日—9月5日
場所：TURNフェス 2021 特設ウェブサイト
https://fes2021.turn-project.com/online
主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京・東京都美術館、特定非営利活動法人Art’s Embrace、国立大学法人東京芸術大学
共催：東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会

プログラム
—
○「同じ月を見た日」アイムヒア プロジェクト｜渡辺 篤
○「吃音 the mic プロジェクト」マチーデフ
○「空白へとむかうみち［前編］［後編］」山本千愛
○「世界を自分に取り戻せ」松本力× TDU・雫穿大学
○ TURNインタビュー「MY TURN / YOUR TURN」
○ TURN映像アーカイブ「TURNフェス」「TURN in BIENALSUR」「TURN in BRAZIL」
○ TURN映像アーカイブ「森山開次の身体表現を介した交流の記録」
撮影・編集：冨田了平
交流先：金町学園、クラフト工房La Mano、クリエイティブサポートレッツ、ここね篠崎、こころみ学園、みずのき、リサイクル洗びんセンター
○『TURNs 2016-2021』（2021年） 監督：田村 大
○「TURN Tunes」［全5回］パーソナリティ：稲継美保
○「TURN TV」［全5回］パーソナリティ：ライラ・カセム
○『TURN NOTES』井川 丹

○「『TURN NOTE』（2016-2020）リーディング」［全5回］
向坂くじらとカニエ・ナハ
○ 対談：渡辺 篤 × 斎藤 環
○「手とその人 ―自分と社会を手でつなぐ32人のかたち―」
五十嵐靖晃 × クラフト工房La Mano
○「まじむらにゃんべえの世界」飯塚貴士
※ 参加アーティストの多くが「TURNフェス6：東京都美術館」とは異なる独自のオンラインプログラムを発表、配信。

ワークショップ、参加型プログラム
—
○ 永岡大輔「バンド工房」オンラインワークショップ
日程：7月30日、8月6日 各13:30–14:30
—
○ パポとユミ× 上町工房「上町サルサ」
オンライン参加イベント「みんなのサルサ」
日程：8月27日 14:20–15:00

TURNミーティング
—
第14回 TURNミーティング
—
「コミュニケーションの難しさ」
日程：8月17日 16:30–20:30
実施方法：オンライン生配信
出演者：綾屋紗月（東京大学先端科学技術研究センター特任講師・自閉スペクトラム当事者）、石川絵理（特定非営利活動法人シアター・アクセシビリティ・ネットワーク事務局長、ダイアログ・イン・サイレンス アテンド）、佐沢静枝（特定非営利活動法人しゅわえもん、立教大学日本手話兼任講師）、瀬戸口裕子（手話通訳士、アート・コミュニケータ）、荻上チキ（評論家、ラジオパーソナリティ）、日比野克彦（TURN監修者）、森 司（TURNプロジェクトディレクター）、畑まりあ（アーツカウンシル東京）
—— 2020年度の「オンラインTURNミーティング」の取り組みを振り返りながら、コミュニケーションの多様な形とその難しさについてゲストと共に考えました。

第15回 TURNミーティング
—
「TURNの今とこれから」
日程：12月13日 13:30–16:00
場所：東京都美術館 講堂
登壇者：永岡大輔（アーティスト）、高田紀子（板橋区立小茂根福祉園職員）、丸山素直（アーティスト）、近藤博子（気まぐれ八百屋だんだん店主）、伊勢克也（アーティスト）、新澤克憲（ハーモニー施設長）、日比野克彦（TURN監修者）、森 司（TURNプロジェクトディレクター）、畑まりあ（アーツカウンシル東京）、岩中可南子（特定非営利活動法人Art’s Embrace）
パフォーマンス：井川 丹（音楽家）、田中俊太郎（バリトン）、渡邉智美（声楽家）
—— TURN参加アーティストや福祉施設などの団体スタッフと共に、活動を通して得た気づきや、今後引き継がれていくものについて語り合いました。

TURNラボ
—
日程：4—8月
参加者：梶谷真司（哲学者、東京大学大学院総合文化研究科教授）、佐藤慎也（建築家、日本大学理工学部建築学科教授）、島影圭佑（オトングラス代表取締役）、富塚絵美（アーティスト）、橋本 瞭（Ubitoneメンバー）、本多達也（Ontennaプロジェクトリーダー、富士通）、三科聡子（宮城教育大学教育学部准教授）
——「TURNラボ」の活動を通して生まれた作品を「TURNフェス6：東京都美術館」にて発表しました。

サポーター事業
—
○ TURN フェス 6 オリエンテーション
日程：8月9日
実施方法：オンライン参加

※「海外展開」については p.62–63 参照

海外展開：2020－2021年度

渡航が困難な状況で、世界とつながり続けた2年間。

—

台湾での展開に先立ち、2019年12月にシンポジウム形式の公開ミーティングを東京藝術大学で行った矢先、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、海外展開の進行が難しくなります。その他の国で展開する可能性もあったものの、現地での開催はすべて中止となりました。

そこで、2020年夏に東京藝術大学が主体となり開催したのが「TURN on the EARTH ～わたしはちきゅうのこだま～」展です。多彩な地域と人と共に巡り会いながら展開してきた、海外での活動を紹介する展覧会を東京で実施しました。世界6カ国（ブラジル、アルゼンチン、ペルー、エクアドル、キューバ、ポーランド）でのプロジェクトを紹介し、各国で表現を行ってきた10組のアーティストによる作品を展示しました。さらに巡回展として、香川県にて「TURN on the EARTH ～わたしはちきゅうのこだま～ 善通寺展」を開催しました。4名のアーティストがそれぞれの作品テーマをベースに、オンライン参加プログラムを展開し、香川県民を中心とした一般参加者とのワークショップを通して生まれた作品を披露しました。また、会場となる国指定重要文化財・旧善通寺偕行社（かいこうしゃ）の三次元空間をインターネット上に公開し、展覧会場と連動させたバーチャル展覧会も公開しました。

コロナ禍においても海外とのつながりを継続し、それぞれの場所でできることを考慮しながら生まれたのが、2021年夏に国立新美術館で開催した「TURN茶会」でした。大空間の展示室に、竹で組んだ12の茶室を設置。「ワークショップ茶室」と称する11の茶室では、海外で行ってきたTURNの活動をもとに制作された作品の展示とワークショップを展開しました。また、「国際交流オンライン茶室」と称した中央の茶室では、海外でのTURNの活動の推進者や海外の芸術大学などの関係者たちと、東京藝術大学の教員がオンラインでつながり、ファシリテーターを務めた日比野克彦と共に意見交換を行いました。

2016年からはじまったTURNの海外展開は、現地展覧会を終えた後も、日本のアーティストと現地の福祉施設のスタッフ、アーティスト、大学関係者などとのやりとりは続き、関係は紡がれてきています。こうした細やかな交流を通じて、再び連携していこうという気運は現在でも続いています。

2020年度

TURN on the EARTH ～わたしはちきゅうのこだま～

—

主催：国立大学法人東京芸術大学、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embrace
協力：国立トレス・デ・フェブレロ大学、エクアドル中央大学、ヴィフレド・ラム現代美術センター（ハバナ・ビエンナーレ事務局）、ヴロツワフ美術大学、財団法人国家文化芸術基金会、財団法人文化台湾基金会、台北当代芸術館
参加アーティスト：五十嵐靖晃、岩田とも子、大西健太郎、小野龍一、そねまい、髙岡太郎、瀧口幸恵、徳本萌子、永岡大輔、中村奈緒子、布下翔碁、許允（ホ ユン）、松橋和也

—

◯ オンラインワークショップ
日程：6月25日－9月6日

—

◯トーク オンライン交流「こだまの会」
日程：8月31日 9:00–12:30

—

◯ 展覧会
日程：7月23日－9月6日（7月27日、8月3、11、17、24、31日休）
場所：東京藝術大学大学美術館 本館 展示室3、4

—

「TURN on the EARTH ～わたしはちきゅうのこだま～」五十嵐靖晃による展示

TURN on the EARTH ～わたしはちきゅうのこだま～ 善通寺展

—

主催：香川県、香川大学創造工学部、国立大学法人東京芸術大学、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embrace
協力：善通寺市、総本山善通寺、香川県立善通寺第一高等学校
参加アーティスト：五十嵐靖晃、岩田とも子、そねまい、布下翔碁

—

◯ オンラインワークショップ
日程：12月25日－2021年2月7日

—

◯ 展覧会（会場展示）
日程：2021年2月21日－3月7日
場所：旧善通寺偕行社

—

◯ 展覧会（三次元バーチャル展示）
日程：2021年2月5日－3月31日
場所：ウェブサイト

—

◯ 講演会
対象：善通寺市立善通寺東中学校及び善通寺市立善通寺西中学校の生徒
実施方法：講演を収録したDVDを配布

2021年度

TURN茶会

—

「地球・人をアートで問う」

—

日程：7月23日－8月9日（7月27日、8月3日休）
場所：国立新美術館 企画展示室2E
主催：国立大学法人東京芸術大学、国立新美術館、東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、特定非営利活動法人 Art's Embrace
共催：東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
協力：ウィーン応用芸術大学、ヴロツワフ美術大学、エクアドル中央大学、国立シラパコーン大学、国立トゥクマン大学、国立トレス・デ・フェブレロ大学、コロンビア大学、西安美術学院、チューリヒ芸術大学、パリ国立高等美術学校、ペルー国立美術学校、ペンシルベニア大学、ミュンスター美術アカデミー、ミラノ工科大学、ロンドン芸術大学

ワークショップ茶室

—

◯ 五十嵐靖晃「いとまき ～お茶を連客で回し飲みするように糸を回してみる～」
◯ 岩田とも子「海の石にかいしきを折る」
◯ 大西健太郎「手レよむダンス『東京ひっそり』」
◯ 小野龍一「音楽の巣をつくる」
◯ そねまい「結ぶ、繋がる。」
◯ 髙岡太郎「土から土から土へ」
◯ 瀧口幸恵「祈りを重ねる」
◯ 永岡大輔「球体の家：信頼のためのエチュード『転がる床』」
◯ 布下翔碁「土の伝言」
◯ 林奈緒子、徳本萌子、松橋和也「キューバ時間で動いてる」
◯ 許允（ホ ユン）「ワンモアタイム」

国際交流オンライン茶室

—

◯ ウィーン応用芸術大学 ⇔ 三井田盛一郎
◯ ヴロツワフ美術大学 ⇔ ミヒャエル・シュナイダー
◯ エクアドル中央大学 ⇔ 日比野克彦
◯ 国立シラパコーン大学 ⇔ 岡本美津子、藤原信幸、今村有策
◯ 国立トゥクマン大学 ⇔ 日比野克彦
◯ 国立トレス・デ・フェブレロ大学 ⇔ 日比野克彦
◯ 西安美術学院 ⇔ 工藤晴也
◯ ペルー国立美術学校 ⇔ 日比野克彦
◯ ペンシルベニア大学、コロンビア大学 ⇔ スプツニ子!
◯ ミュンスター美術アカデミー ⇔ 小山穂太郎、林武史
◯ ミラノ工科大学 ⇔ 樫村芙実
◯ ロンドン芸術大学、パリ国立高等美術学校、チューリヒ芸術大学（Shared Campus）⇔ 今村有策ほか

※参加機関 ⇔ 東京藝術大学の担当教員

「TURN交流プログラム」「TURN LAND」参加法人名称

※本文中にて、法人格や法人名を略して記載した施設もしくは団体一覧。

—

○ 一般社団法人アプローズ　アプローズ南青山
○ 一般社団法人くるみの会　放課後等デイサービス みかんの木
○ 一般財団法人たんぽぽの家
○ 株式会社 LITALICO　LITALICO ジュニア所沢教室
○ 合同会社 HARMONY TALISMAN　ハーモニー・プリスクール・インターナショナル
○ 社会福祉法人秋田福祉協会　小又の里
○ 社会福祉法人旭川荘
○ 社会福祉法人あだちの里　綾瀬ひまわり園
○ 社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会　板橋区立小茂根福祉園
○ 社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会　豊島区立心身障害者福祉ホームさくらんぼ
○ 社会福祉法人きょうされん　グループホーム フラワー
○ 社会福祉法人きょうされん　リサイクル洗びんセンター
○ 社会福祉法人こころみる会　こころみ学園
○ 社会福祉法人さくらの園
○ 社会福祉法人さくらの園　西東京市障害者就労支援センター 一歩
○ 社会福祉法人松花苑　みずのき
○ 社会福祉法人慈雲福祉会　グランアークみづほ
○ 社会福祉法人せたがや樫の木会　上町工房
○ 社会福祉法人台東つばさ福祉会　つばさ福祉工房・たいとう寮
○ 社会福祉法人太陽会　しょうぶ学園
○ 社会福祉法人東京愛育苑　金町学園
○ 社会福祉法人まちのひ　富士清掃サービス・富士第二作業所（旧：社会福祉法人富士福祉会、2021年1月より）
○ 社会福祉法人やまなみ会　やまなみ工房
○ 社会福祉法人友愛学園　渋谷区障害者福祉センター はぁとぴあ原宿
○ 東京聴覚障害者福祉事業協会　たましろの郷
○ 特定非営利活動法人 akta　コミュニティセンター akta
○ 特定非営利活動法人 EPO
○ 特定非営利活動法人クリエイティブサポートレッツ
○ 特定非営利活動法人グレースケア機構　ナースさくまの家
○ 特定非営利活動法人スウィング
○ 特定非営利活動法人 TDU・雫穿大学　TDU・雫穿大学
○ 特定非営利活動法人東京シューレ　シューレ大学
○ 特定非営利活動法人ネパール教育支援センター　エベレスト・インターナショナル・スクール・ジャパン
○ 特定非営利活動法人ももの会　桃三ふれあいの家
○ 特定非営利活動法人やっとこ　ハーモニー
○ 特定非営利活動法人 La Mano　クラフト工房 La Mano

TURNの発行物
［2015－2021年度］

TURNの活動を伝え、言葉の運動としての機能を担う発行物。変化していく空気を形にしようと、ロゴは年度ごとにTURN監修者の日比野克彦がカラーリングを行い、デザイナーがその意向に沿ってデザインしました。ロゴを使用した発行物や展示デザインには、それぞれの年度の願いや気運が込められています。

2016年度から毎年発行してきた『TURN NOTE（ターン ノート）』は、活動のなかで生まれたTURNにまつわる言葉を集めた冊子。様々な瞬間、記録からこぼれ落ちてしまうような、一見すると何でもない時間にこそTURNがあるのではないか、という視点で言葉を収集してきました。

2018年度にスタートした『TURN JOURNAL』は、TURNの活動や現象を記録し、深めることを目的にした媒体です。その時々で姿を変え、本号も含めて8号まで発行しました。

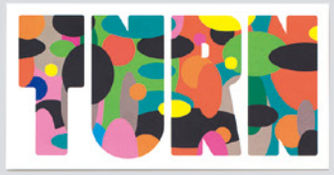
また、活動をまとめた冊子やリーフレットは、プロジェクトの特徴を伝えるのみならず、紙媒体にすることで、人の手から手へとTURNが手渡され、新たな対話や交流への糸口としての役割を担いました。

発行物のPDFについて

こちらのQRコードより、
「TURNの発行物」のPDFをご覧いただけます。

2015

1



2

3

1.「TURNフェス」チラシ ／ 2.「TURNフェス」封筒入り案内状 ／ 3.『TURNフェス ドキュメントブック 2015』

2016

1

2

3

4

5

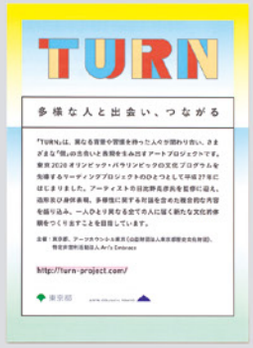
6

1.「TURNフェス2」チラシ ／ 2.『TURNフェス2 ドキュメントブック2016』／ 3. 2016年度 フォルダ ／ 4.『TURN NOTE「TURN」を考えたときの言葉 2016』
5.「TURN in BRAZIL 帰国報告会」チラシ ／ 6.『TURN in BRAZIL 2016 ドキュメントブック 日比野克彦とブラジルで TURNした 39日間』

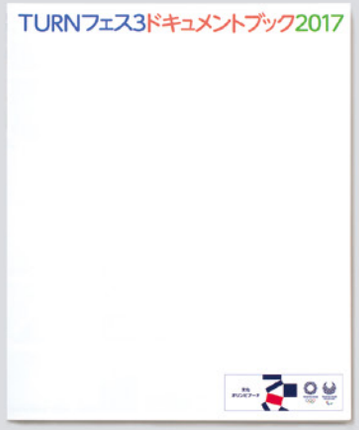
2017

1

2



3



4

5

6

7

8

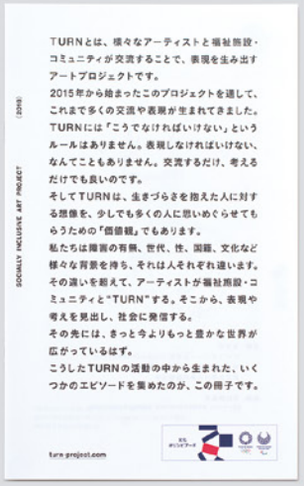
1.「TURNフェス3」チラシ ／ 2. 2017年度 フォルダ ／ 3.「NO LIMITS SPECIAL 2017 上野」チラシ ／ 4.『TURN フェス3 ドキュメントブック 2017』
5.『TURN NOTE「TURN」にふれたときの言葉 2017』／ 6.「TURNによせて 鷲田清一」テキストリーフレット
7.『TURN in BIENALSUR DOCUMENT BOOK 2017』／ 8.「TURN LAND」気まぐれ八百屋だんだん「第2回 おとな図鑑」チラシ

2018

1

2

3



4

5

6

7

8

9

1. 2018年度 TURN 事業案内 リーフレット ／ 2.「TURNフェス4」チラシ ／ 3.「TURNフェス4」サポーター募集チラシ ／ 4.『TURN 冊子(2018)』小冊子
5.『TURN JOURNAL 2018』／ 6.『TURN NOTE「TURN」とつながったときの言葉 2018』／ 7.「第7回 TURNミーティング」チラシ
8.「TURN LAND」クラフト工房 La Mano「手のプロジェクト」リーフレット ／ 9.「TURN LAND」ハーモニー「お金をとらない喫茶展 ～ものもの ものこと ことこと もの～」チラシ

2019

1

2

3

4

5

6

7

8

9

1. 2019年度 TURN 事業案内 リーフレット ／ 2.「TURNフェス5」チラシ ／ 3.「TURNフェス5」サポーター募集チラシ ／ 4.『TURN JOURNAL SUMMER 2019—ISSUE 02』
5.『TURN JOURNAL SPRING 2020—ISSUE 03』／ 6.『TURN NOTE「TURN」とともにあるときの言葉 2019』／ 7.「TURN in TAIWAN」チラシ
8.「TURN LAND」気まぐれ八百屋だんだん「おとな図鑑」アーカイブリーフレット ／ 9.「TURN LAND」クラフト工房 La Mano「手のプロジェクト」チラシ

2020

1

2

3

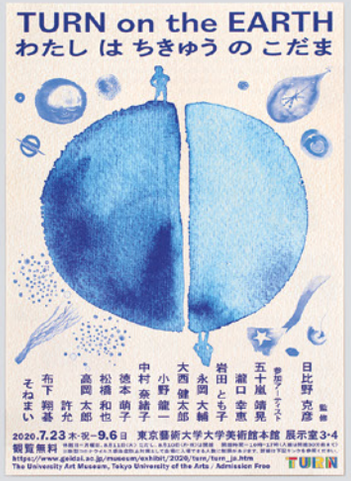
4

5

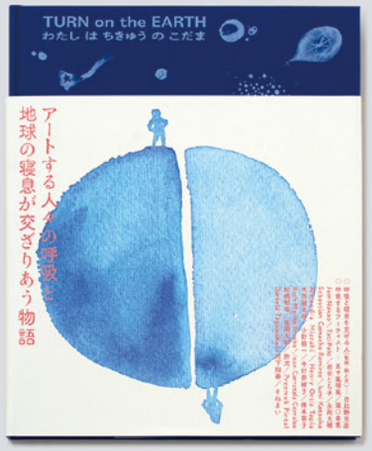
6

7

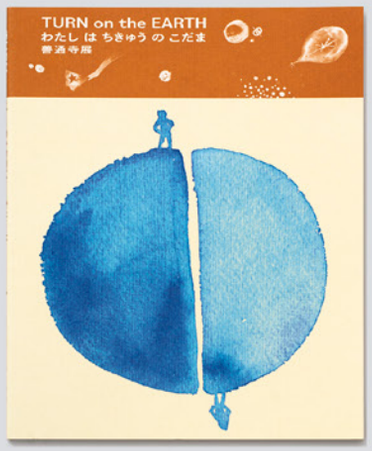
8



9



10



11

1.『TURN JOURNAL SUMMER 2020 — ISSUE 04』／ 2.『TURN JOURNAL AUTUMN 2020 — ISSUE 05』
3.『TURN JOURNAL WINTER 2020 — ISSUE 06』／ 4.『TURN JOURNAL SPRING 2021 — ISSUE 07』

5.『TURN NOTE「TURN」をめぐる言葉 2020』／ 6.「TURN LAND」気まぐれ八百屋だんだん「でるんば通信 2020年度」アーカイブ冊子
7.「TURN LAND」クラフト工房 La Mano「手のプロジェクト 2020年 211日間の記録」アーカイブリーフレット
8. 板橋区立小茂根福祉園「MAGAZINE こもね座 特別号」アーカイブ冊子 ／ 9.「TURN on the EARTH ～わたしはちきゅうのこだま～」チラシ
10.『TURN on the EARTH わたしはちきゅうのこだま』書籍（東京藝術大学出版会）
11.『TURN on the EARTH ～わたしはちきゅうのこだま～ 善通寺展』報告書

2021

1

2

1.「TURNフェス 2021」チラシ ／ 2.「TURN茶会」チラシ

※2022年2月に『TURN NOTE「TURN」からひろがる言葉2021』発行予定。